

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平良 勝明	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 英語教育専修	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	英国や米国の最新記事や文学作品をホームページやビデオ等を介して教材として使用し、学生の英語圏への文化的理解を深めるとともに言語学習意欲も最大限刺激する教育を目指す。四年次指導教員として学生の教育並びに生活・進路指導に貢献する。			0.40	最新のニュースや記事を逐次配信しているインターネットサイトやイギリスのテレビ番組その他のメディアコンテンツを利用して学生の英語圏への文化的理解の助長に努めた結果、学生の学習意欲や知識習得の向上に貢献することができた。		
研究	0.35	Virginia Woolfの作品における断片的かつ融合的な意識世界の展開に関する論文を執筆する。			0.35	Virginia Woolfの前衛的で流動的な意識世界を研究・分析してそれを二編の論文に纏めて紀要等で発表することができた。		
社会 貢献	0.20	ホームページ(http://www.cc.u-ryukyu.ac.jp/~iluvelyn/)を利用して英語の世界(言語ならびに文化)に親しみ、そして浸れるインターフェイスの構築ならびに充実を図る。			0.20	ホームページ、そしてマルチメディアコンテンツを利用した英語の世界そしてその文化に親しむことが可能なインターフェイスの整備・充実に取り組むことができた。		
管理 運営	0.05	学生生活委員として学生の就職対策等に貢献する			0.05	学生生活委員、並びに教育委員、そして四年次指導教員として学生の大学生活や学業に関する援助を積極的に行い学生の教育・生活指導並びに学生生活全般の充実や就職率の向上に貢献した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		大城 賢		所 属		教育学部英語教育講座 教育学部附属実践センター長(併任)		職 名		教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.20	大学院:大学院2年次学生(現職教員)の指導教員として見直しをもった論文指導を行う。学部:2人の学生(実践学専修)の卒業論文指導を行う。英語科教育法A、B及び外国語活動のクラスにおいては学生中心の講義を展開し、年度末には授業記録をまとめ、次年度の講義に活かす。教職実践研究・演習においては、学生のニーズに合わせた多様な体験活動及び演習等を行う。				0.20	大学院:大学院2年次学生(現職教員)の指導教員として論文指導を行った。しかしながら、学校現場の忙しさもあって論文を完成するまでには至らなかった。学部:2人の学生(実践学専修)の卒業論文指導を行った。現場の授業観察などを継続するのは難しい場面もあったが、二人とも満足のいく論文を仕上げる事ができた。英語科教育法A、B及び外国語活動のクラスにおいては、ディスカッションを授業に取り入れ、学生中心の授業を展開することができた。学生には、毎回、授業リフレクションを書かせ、メールで送信させた。今回の授業の構想に大いに役立てることができた。教職実践研究・演習においては、学生のニーズに合わせた多様な体験活動及び演習等を行うことができた。				
研究	0.20	「韓国における英語教育の総合的研究」と「児童英検及び英語能力判定テストを用いた英語力と情意面の関連に関する研究」及び「イメージ教育から見る日本の早期英語教育への示唆」の3つのテーマで公益財団法人日本英語検定協会から受託研究費を頂いている。この3つのテーマを中心に本年度は研究を行う。				0.20	日本英語検定協会からの受託研究費を受けたことにより、研究調査をスムーズに進めることができた。その結果は教育学部紀要(4編)及び報告書(1編)としてまとめることができた。また、文部科学省の委託を受け「小学校外国語活動の教科化に対応した教員養成カリキュラム開発」に取り組んだ。全国の教員養成系大学へのアンケートや実地調査、さらに現職教員や学生へのアンケートを実施し、報告書にまとめることができた。この報告書は本学の教職課程のカリキュラム編成に役立つだけでなく、全国の教員養成系大学のカリキュラム開発に貢献するものと確信している。				
社会貢献	0.20	小学校の外国語活動及び中学校、高等学校の英語指導法に関するセミナーや講演などを通じて地域への貢献を行う。				0.20	対外的な活動として、次の活動を行った:①文部科学省「研究開発学校企画評価会議」委員、②文部科学省「英語力評価及び入学選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」技術審査委員、③文部科学省「英語教育強化拠点事業」審査委員(主査)、④日本児童英語教育学会副会長、⑤小学校英語教育学会常任理事、⑥沖縄県浦添市英語教育推進委員会委員、⑦琉球新報教育賞審査委員。以下の指導助言及び講演を行った:①全国英語研究団体連合会(全英連)大分大会・指導助言、②全国小学校英語活動実践研究大会(仙台大会)・指導助言、③宮崎大学教育文化学部附属小学校公開研究会・講演、④福岡県大野城市立大野南小学校研究発表会・講演、⑤長崎県佐世保市立金比良小学校研究発表会・講演、⑥熊本県荒尾市立中央小学校研究発表会・講演、⑦石川県教育センター研修会講師、⑧福岡県教育センター教員研修会・講師、⑨大牟田市教育委員会小学校外国語活動研修会・講師、⑩長崎県佐世保市教育センター研修会・講師、⑪岡山県倉敷市立玉島小学校校内研修会講師。				
管理運営	0.30	教育学部附属教育実践総合センター長として、センターの管理運営にあたる。また、教育実習委員会委員長として教育実習全般を統括する。				0.30	教育実践総合センター長として、特に沖縄県委託事業「学力向上先進地域育成事業」を進めた。また、地域連携事業部門長として、連携協定にもとづく地域との連携事業を進めた。いずれも報告会を持つことができ、報告書を作成することができた。教育実習委員長としては、附属学校実習、公立学校実習がスムーズにいくように努力した。今年度は大きな問題もなく全員が教育実習を終了することができ安堵した。共同研究推進委員会の委員長でもあったが、この委員会は、まったく活動することができず、力不足を感じた。				
進路指導	0.10	卒業論文指導の学生、2年次の学生(年次指導教員として)を中心に適切な進路指導を行う。				0.10	卒論指導の学生には、卒論指導を進めながら、適宜、進路指導を行うことができた。二人とも小学校及び幼稚園での本採用が決まった。2年次の英語科の学生に対しては、個別に進路指導を行った。心身に問題のある学生が一人いて、今後の進路指導に力を入れたい。				
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小林 正臣	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 英語教育専修	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	①教育学部指定および英語教育指定の授業における英語力向上に努める。 ②上記以外の授業における総合的向上に努める。		0.30	①「大学英語」(教育学部指定クラス)などの共通教育では、英語に対する苦手意識を軽減するために副教材等を導入した。今後も継続して英語力の向上に向けての努力と工夫を行いたい。 ②「アメリカ文学研究I」や「米文学特論II」などの専門科目においては、副教材を導入するなどの工夫をした。受講者たちの更なる満足を得られるようにしたい。	
研究	0.30	①前回の科研費による研究成果を拡充するために学会誌に継続的に投稿する。 ②新たに入会した学会で、研究の更なる充実化を図る。		0.30	①予定した年間計画を概ね実施できた。その成果は、学会の全国誌に論文が掲載されたことによって具体化された。 ②学外の研究者および出版社との連携を強化することにより、今後の研究の新たな方向性を見出し、科研費申請を行えた。	
社会 貢献	0.05	①学外からの依頼で幼稚園免許取得希望者への英語教育を定期的に行う。		0.05	①学内では教えることが稀有である幼稚園免許取得希望者に向けた英語教育は、新たな経験を積み、知見を広めることができた。今後も継続して行うつもりである。	
管理 運営	0.30	①主任としての業務全般を遂行する。 ②外国語系委員会の業務全般を遂行する。		0.30	①主任に関わる業務から講座内の昇任人事に至るまで、全般的に任務を遂行した。 ②英語の入試問題作成委員を通年で務め、遅滞等の問題なく作成を行えた。	
進路 指導	0.05	①3年次指導教員として、履修指導および実習関連の指導を適切に行		0.05	①指導教員および主任として履修指導・その他を行い、留学希望者にも適宜対応して、書類作成なども行った。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		深澤 真	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 英語教育専修	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	【教育】 ・ペアやグループワークを活用し、学生主体の授業を実施する。ICTを活用し授業の効率化を図るとともに、オンライン教材を活用し学生の自律的学習を支援する。さらに、アンケートを1学期につき2回実施することにより、授業改善に役立てる。 【学生支援】 ・1年次担当教員として、面談を各学期1回ずつ実施し、学校生活および学習のための支援を行う。なお、大学院生については教員採用試験に向けたアドバイスを定期的に行うとともに、面接の指導などを必要に応じて実施する。		0.60	【教育】 ・ペアワークやディベートなどのグループワークを活用し、学生主体の授業を実施することができた。パワーポイントやインターネットを活用し授業の効率化を図るとともに、ALC NetAcademyなどのオンライン教材を活用し学生の自律的学習を促した。アンケートは1学期につき1回実施するにとどまった。 【学生支援】 ・1年次担当教員として、面談等をとおして各学期2回程度学生と話す機会を作り、学校生活および学習のための支援を行うことができた。 ・大学院生については、修士論文の指導を週1回通年で実施した。また、教員採用試験に向けたアドバイスを適宜行い、教員採用試験に合格した。		
研究	0.30	・科研費研修会に参加し、科研費の応募を行う。 ・学会誌等への論文の投稿を行う。 ・研究分担者として、ロールプレイの評価に関する実験・研究を支援する。		0.10	・科研費研修会に参加したが、科研費の応募には至らなかった。引き続き次年度の応募に向けて準備を進める。 ・茨城大学センター紀要に論文が掲載された。 ・研究分担者として、ロールプレイの評価に関する実験・研究を支援し、平成27年度9月に東京で行われた日本語テスト学会において共同発表を行った。		
社会 貢献	0.10	・全国英語教育学会事務局(会計補佐)として事務局長を補佐し、学会の円滑な運営に努める。		0.10	・全国英語教育学会事務局(会計補佐)として事務局長を補佐し、学会の円滑な運営に努めた。 ・附属小学校の外国語活動の指導者・共同研究者として、通念にわたり指導助言を行った。		
管理 運営	0.20	・教育学部教育実習委員会の教職体験部会長として、小中学校、教員、学生との連絡を密に取り合いながら、学生の教職体験を円滑に実施する。 ・投票管理委員として、投票の円滑な実施に努める。		0.20	・教育学部教育実習委員会の教職体験部会長として、実習委員並びに附属小中学校実習担当教員、担当学生との連絡を密に取り合いながら、教職体験を円滑に実施することができた。 ・FD委員会委員として全学の英語統一試験の実施運営にあたった(8月、2月)。 ・投票管理委員会副委員長として、投票の円滑な実施に努めた。		
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		森まゆみ(上原由記音)		所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 音楽科教育専修		職 名		教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.10	昨年度、「音楽」クラスにおいて、試験的に行った輪講およびT.Tの方法を本年も取り入れる。技術の習得と演習を、学ぶ立場、教える立場の両面を経験しながら、学生たちが自ら教授法を学んでいくための授業形態をさらに模索し、より良い授業にしていく。				0.10	「音楽」クラスで昨年度初の取り組みだった輪講およびT.Tでの授業形態を見直し、音楽理論の指導を教員により行う時間を20分作り、輪講を廃止し、T.Tとグループ活動、自己トレーニングの時間を作り授業の質を高めるように改善した。それにより学生の理解度と技術習得度合いが高まった。				
研究	0.40	スペインの作曲家エンリケ・グラナドスについて、毎月、月刊ショパンにて「グラナドスの魅力として」12回の連載を行う。カワイ音楽振興会主催にて「上原由記音スペイン音楽講座」としてグラナドスのレクチャーを4回行う。学会へでの論文発表を行う。				0.40	月刊ショパン連載の「グラナドスの魅力」は既に12回分の連載を行い、引き続き生誕150年である本年も継続12回の連載を行うことが決まった。カワイ音楽振興会主催の「上原由記音スペイン講座」は既に3回を終了し、3月24日に第4回を行う。音楽論集第4巻で論文1本を発表し、琉球大が宇実践センターに3本、日本スペインピアノ音楽学会へ1本論文を提出し、現在発行を待っている。2月末にはスペインバルセロナ「フランクマーシャル音楽院」にて研修を受ける予定である。				
社会 貢献	0.40	「日本スペインピアノ音楽学会」を立ち上げる。沖縄県立芸術大学とのコンソーシアム構想を実現させる。				0.40	日本スペインピアノ音楽学会を6月1日に設立し、会長を務める。会員による研究会を毎月行い、自身は2回の講座を行い、2月にもう一回講座を担当する。学会論文集は既に編集作業に入っている(春に刊行予定)。沖縄県立芸大とはコンソーシアム構想の一環として沖縄県芸と琉球大学の共同研究発表と両校の親睦を図る「フレンドシップコンサート」を10月17日に行った。一般社団法人ウミンズライフデザインソサエティ主催による第2回女性の健康文化祭に参加し演奏と話をして、女性の健康づくりと社会参加について理解を深めるよう努めた。				
管理 運営	0.10	2年次指導教員、入試委員、研究科主任を務める。				0.10	2年次指導教員、入試委員、研究科主任並びに人事選考委員を務める。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		シャイヤステ榮子	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 音楽教育専修	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.60	担当科目である「音楽科教育法A&B」の指導内容と附属学校との教育実習の指導連携に取り組む。さらに、4年次必修の「教育実践研究」と「教育実践演習」では、発達障がいのある子ども達への音楽活動に施設側との連携をより強化する。修論指導1名と卒業論文指導2名に関しては教育現場(附属中・公立学校)と連携し、教育実践に重きを置いた指導を目標とする。			0.30	「音楽科教育法B」では、附属学校での教育実習へ向けて特に教材研究を中心に講義を進めた。リコーダー指導、発達障がいのある生徒のいる音楽科指導、小学校の音楽専科の役割や音楽科指導のポイントを実地指導講師を具体的な指導方法を教授して頂き教育実習への十分に準備ができた。「音楽科教育法A」では音楽教師の基礎力を付ける指導ができた。修論と卒論指導も順調に進み最終試験、最終提出への進んでいる。		
研究	0.20	沖縄県内における音楽療法(教育・療育を含む)の歴史的研究を投稿。沖縄音楽療法研究会への連載の継続。			0.50	『音楽科論集』が2015年12月に出版され5本投稿した。「国立療養書琉球精神病院における音楽療法の試み」「看護師の視点に立った音楽療法の効用」「沖縄音楽療法研究会傷世紀における実践活動の記録」「沖縄における音楽療法プログラムの歴史的研究」「時間芸術を鑑賞するための方法論」である。		
社会 貢献	0.10	障がい者就労支援施設「ミラソル会」「蒼生学園」の音楽プログラム計画・実践・アドバイス指導。昨年同様に、教育実践センターのアドバイザー要員としての貢献。			0.10	蒼生学園傘下の発達障がいのある人たちを支援している「そうせいセンター」から創立以来10年間の音楽療法プログラム実践に対して感謝状を頂いた。		
管理 運営	0.10	全学図書館資料選定委員として、データベース等の選択・購入・予算に関わる委員会に学部代表委員として属している。学部内における教育実習委員として教育実習や介護等体験に関わる。			0.10	全学の図書委員は全学年度3月で終了し、本学年度は教育実習委員として介護等での施設訪問や教職体験Ⅱでの実習校訪問を精力的に実践した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		崎山 弥生	所 属		教育学部 教員養成課程	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	心理療法概論の授業の内容改善。 合奏の授業への取り組み。			0.25	心理療法概論の授業では、パワーポイントを作成し、視覚的にも学生が理解しやすい内容とした。合奏の授業の前期は、本来は音楽教育専修の学生のみ受講可能だが、聴講という形で他学部の楽器経験者にも参加してもらい、音楽的なレベルアップができた。後期の授業では履修した他学部の学生達に多く参加してもらい無事に音楽科発表会を終える事ができた。		
研究	0.25	紀要への投稿 コンサートへの出演 学会、研究会への参加			0.25	教育実践総合センター紀要 第23号に投稿 コンサートへの出演(7回) 日本音楽表現学会、全日音楽研究会、リコーダー研究会に参加		
社会 貢献	0.25	学外の委員会、研究会等への参画			0.25	全沖縄学校音楽発表会、全琉音楽祭の審査員を務めた 琉球大学附属小学校、中学校の合唱祭の審査員を務めた 教育実践学専修の学生が毎年行っている「ドリームフェスティバル」に参加 全沖縄高校文化連盟の合同オーケストラの指導を数回行い、コンサートにも賛助出演した。		
管理 運営	0.25	所属部局における委員会での具体的貢献			0.25	投票管理委員会は、選挙の度に参加 学生生活委員会では、新入生合宿研修WGに於いて授業以外の時間も割いて 取り組んだ。 また、教員採用試験に向けたセミナーでは、リコーダーの実技指導を担当した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	岡田 恵美		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 音楽教育専修		
職 名	講師					
領域	業務ウエイト比(予定)	平成27年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・学生支援	0.50	1) 学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるような授業デザイン 2) 映像教材・音響教材やPPTを使用した視覚効果の高い授業プレゼンテーション 3) 教員採用試験を意識した授業内容および理解度テストの実施 4) 学生と教員による共同プロジェクトの推進 5) 新入生合宿運営におけるCATS(学生合宿運営委員)への支援および指導	0.50	1) 学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるような授業デザイン アクティブ・ラーニングを念頭に置き、各学生がテーマを決めて調査を行い、それを授業でプレゼンテーションする機会を設けた。学生は発表内容やプレゼン方法など、互いに刺激し合っ工夫する場面も多く見られ、自主性が高くかつ対話型の学びの環境を提供できた。 またWEBCLASSを活用して、毎授業回の授業テキスト・ワークシート・パワーポイント資料を事前にサイトにアップロードをしておいたため、学生は好きな時にダウンロードをして予習や復習ができるユビキタス環境を提供することができた。 2) 映像教材・音響教材やPPTを使用した視覚効果の高い授業プレゼンテーション 担当授業では、音源資料や映像資料、またパワーポイントを効果的に用いた。また、担当している講義科目において、各授業で使用するテキスト教材およびPPT教材をすべて独自に作成し、授業後に学習内容の振り返りが容易なように、できるだけ配布資料も細やかに用意した。 3) 教員採用試験を意識した授業内容および理解度テストの実施 専門科目においては、沖縄県の教員採用試験(中高音楽)の過去7年間の問題傾向を分析し、一部の授業では採用試験を意識した過去問題の傾向に関する解説も行った。今年度は、音楽科から現役合格を2名(小、中高)輩出することが出来た。 4) 学生と教員による共同プロジェクトの推進 本年度は留学生を含む4名の学生と共に、郷土文化に関するフィールド調査及び実践として、糸満のハーレー歌に関する研究プロジェクトを進めた。漁港のウミンチュやハーレー大会開催者へのインタビュー調査を通して郷土芸能の保存・継承の方法について議論を交わした。また、「平成27年度糸満ハーレー歌大会」へ学生達と出場し、創作部門において奨励賞を受賞し、糸満ハーレー大会前日の式典にて表彰された。 5) 新入生合宿運営におけるCATS(学生合宿運営委員)への支援および指導 今年度も引き続き、後期の「地域文化交流実習」を担当した。学生の自主性を尊重しつつも、適度に見守って支援可能な体制を作り、情報共有化や他者への配慮など助言も行っている。現在、本研修に向けて準備中である。		
	研究	0.40	1) 科研費「若手研究B」(最終年度)の研究推進・海外調査実施 2) 科研費「研究成果公開促進費(学術図書)」の助成を受け(内定済)、27年度中に出版(単著、単行本) 3) 所属学会・共同研究会・シンポジウムでの発表および論文投稿 4) 国立民族学博物館共同研究の研究成果を出版	0.40	1) 科研費・若手研究B(24年度～27年度)の研究推進・海外調査実施 最終年度の本年度は8月に3週間にわたって、研究対象であるインド北東部ナガランド州を中心にフィールドワークを実施し、総括として各種全国学会誌に投稿を行った。 2) 単行本の出版(科研費「研究成果公開促進費(学術図書)」の助成) 科研費の学術図書助成を受け、2016年2月に単著『インド鍵盤楽器考：ハルモニウムと電子キーボードの普及に見るグローバル化とローカル文化の再編』を、溪水社より出版予定である。(単著、単行本) 3) 所属学会・共同研究会・シンポジウムでの発表および論文投稿 今年度は、全国学会誌に3本の論文を投稿をした。(『音楽教育学』『東洋音楽研究』『民族芸術』) 学会発表は、9月に南アジア学会で、また11月に東洋音楽学会で口頭発表を行った。 4) 国立民族博物館共同研究の研究成果を出版 2016年6月頃に青弓社より出版予定の『環流するインド』の原稿を仕上げた。	
		社会貢献	0.05	1) 所属学会・委員会への参画(支部委員業務など) 2) 教大協音楽部門ならびに全九州音楽学会での理事業務 3) 音楽企画・シンポジウム企画・演奏活動	0.05	1) 所属学会・委員会への参画 所属学会の東洋音楽学会において、支部委員として活動した。 2) 教大協音楽部門ならびに全九州音楽学会での理事業務 本年度の教大協音楽部門ならびに全九州音楽学会に琉大代表として出席した。学会では沖縄地区理事としての活動も行った。 3) 音楽企画・シンポジウム企画・演奏活動 5月に一般向け講座として「WORLDミュージック講座」の講師を担当した。2016年3月には、国立劇場おきなわ大劇場にて、インド/インドネシア/バリ/琉球の伝統舞踊と音楽のコラボ企画を実施予定。
	管理運営		0.04	1) 委員会委員における貢献(新入生合宿運営、認定試験問題作成など) 2) 所属学科の管理運営における貢献 3) 入試関連業務における貢献	0.04	1) 学生生活委員における貢献 今年度も、学生生活委員の合宿WGとして、4月および1月の合宿や、教育欄(5)で先述した「地域文化交流実習」の授業を担当し、CATS学生の指導にあたった。 また、教員採用試験セミナーの認定試験の問題作成、セミナーでの講師(解説)、学科学生へのフィードバックを行った。 2) 所属学科の管理運営における貢献 教室使用の管理業務などを担当している。 3) 入試関連業務における貢献 今年度も学部入試問題作成や大学院入試問題作成を行った。
		0.01	1) 1年次指導教員としての学業面・生活面での意見聴取やサポート 2) 教員採用選考試験受験者へのサポート	0.01	1) 1年次指導教員としての学業・生活面での意見聴取やサポート 指導教員の年次学生を中心に、合宿や懇談会を通して、学業や生活状況の把握を行い、重要な事項については頻りに連絡を取った。 2) 教員採用選考試験受験者へのサポート 管理運営欄の(1)に前述したように、認定試験の前は、過去問題の分析・解説を行い、認定試験受験者には、フィードバックを行った。 また教員採用試験受験者(音楽)の二次試験対策として、三線の対策の機会を設けた。 3) その他 今年度は、来年度からの休学希望者など、学生が個別に相談に訪れる機会が多く、学生のケアや支援を行った。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内公表に同意しない。

(別紙1)本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名前	小川由美		所属	教育学部 学校教育教員養成課程 音楽教育専修	職名	講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	<p>(1)講義を通して、音楽科授業に関する学生の実践力向上を目指す。その為に、レポート・模擬授業の企画実施・授業分析・その他授業に関するプレゼンテーション等の活動を段階的に行い、学生相互に意見交流する場を設ける。</p> <p>(2)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」の講義の一環として、教育現場において音楽科授業を実践し、教員自身の授業実践力向上を目指す。また受講生との協働で授業を構想して創り上げていき、実践分析をすることで、受講生の授業づくり技術の向上をも目指す。</p> <p>(3)琉球大学教育学部で実施する認定試験の音楽科問題(小学校、中高共通)作成を分担担当。(4)音楽教育実践学研究会での研究発表:複数の教員養成大学(音楽教育)による合同合宿を行う。合宿では各大学の大学院生及び、大学教員、現職教員(幼小中高)が参加し、研究成果を交流することを通して、音楽教育に関わる幅広い課題について議論する場を持つ。</p>	0.40	<p>(1-1)「音楽科教育研究」(前期・後期)において、グループによる指導案作成・模擬授業の企画実施・授業分析・授業に関するプレゼンテーション等の活動を段階的に行った。1回ずつの課題を明確にし、グループ活動を中心に取り組ませた。その結果、課題に対する活発で主体的な議論が、グループ及び全体交流の場で見られた。教材開発に重点を置いたことで、教材への理解が深まり、小学校音楽科授業を構成する力、及び模擬授業における実践力(発問や教材提示の方法など)において向上が見られた。今年にはさらに、模擬授業後の検討会にて、フロアから意見を取り入れて再度「試す」という試みを行った。それにより、授業を改善していく営みが生まれた。このことにより、授業を色々な視点から「みる」力にも向上が見られた。</p> <p>(1-2)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」の後半は、附属小学校での教育実習に向けての教材研究を、「音楽科教育法C」では、附属小中学校での教育実習での反省を踏まえた新たな教材開発を行った。実習の前で教材分析を中心とした音楽科授業づくりを実践的に行うことで、学生が個々に抱えている課題に対応した授業プログラムとなった。</p> <p>(2)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」の講義の一環として、附属小学校において沖縄のわらべうたを教材とした音楽科授業を教員自身が実践し、受講生はその授業分析を通して小学校音楽科授業における授業構成の視点を省察している活動を行った。これにより、音楽科授業を構成する理論について実践と結び付けて考察理解を深めている様子が見られた。</p> <p>(3)琉球大学教育学部で実施している認定試験の音楽科問題(小学校、中高共通)作成を一部担当。</p> <p>(4)音楽教育実践学研究会での研究発表(2015年8月21-23日、於:ホテル北野プラザ六甲荘) 複数の教員養成大学による音楽教育分野の合同合宿を行った。合宿では本学の大学院生をはじめ、他大学の院生及び、大学教員、各地の現職教員(幼小中高)が参加し、研究成果を交流することを通して、音楽教育に関わる幅広い課題について議論する場を持った。</p>		
研究	0.30	<p>(1)学会発表(日本学校音楽教育実践学会第20回全国大会8/13,14)</p> <p>(2)論文寄稿(琉球大学教育学部紀要、日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育研究』)</p> <p>(3)日本学校音楽教育実践学会全国大会における学会活動(常任理事、副事務局長、編集委員、第20回全国大会企画)</p> <p>(4)日本学校音楽教育実践学会における実践学事典編集にワーキングメンバーとして参加。</p>	0.30	<p>(1-1)日本学校音楽教育実践学会第20回記念シンポジウム(於:東京都文京区シビックホール)第Ⅱ部基調報告「学校における伝統音楽教育の内容と方法、伝統音楽の授業実践の紹介、1小学校歌唱「わらべうた」を実践報告</p> <p>(1-2)日本学校音楽教育実践学会第20回全国大会(於:大阪成蹊大学、2015年8月13-14日)にて自由研究「うたの背景を意識した表現の授業構成-わらべうた実践の分析を通して-」を口頭発表</p> <p>(1-3)フォーラムⅢ教材の働きと開発「音楽と生活」のテーマとして企画・運営を行った。</p> <p>(2-1)日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育研究第20巻』に「うたの背景を意識した表現の授業構成-わらべうた実践の分析を通して-」を寄稿(2016年3月発行予定)</p> <p>(2-2)琉球大学教育学部紀要第87集「中学校音楽科鑑賞授業におけるパフォーマンス評価の研究-パフォーマンスを引き出す手立てに着目して-」を寄稿(2015年9月発行)</p> <p>(2-3)琉球大学教育学部音楽科論集第4集に「音楽的行為としての表現を意識した音楽科授業デザイン-わらべうたを用いた歌唱の実践の場合-」を寄稿(2015年12月発行)</p> <p>(2-4)琉球大学教育学部音楽科論集第4集に「地域素材を活用した保育内容「表現」の授業-沖縄のわらべうたを基にした絵本づくりを通して-」を寄稿(2015年12月発行)</p> <p>(3-1)日本学校音楽教育実践学会第20回記念シンポジウムの運営に常任理事として関わった。(3-2)日本学校音楽教育実践学会の常任理事(副事務局長を兼任)として学会運営に関わった。</p> <p>(3-3)日本学校音楽教育実践学会の編集委員として、学会紀要『学校音楽教育』第19巻の編集に関わった。</p> <p>(4)日本学校音楽教育実践学会における実践学事典編集にワーキングメンバーとして参加した。</p>		
社会貢献	0.10	<p>(1)関西音楽教育実践学研究会における研究発表及び教員養成系大学院生の指導(月1回、大阪教育大学にて開催)。</p>	0.10	<p>(1)関西音楽教育実践学研究会における研究発表及び教員養成系学生の育成を図った。(月1回大阪教育大学天王寺キャンパスにて開催)。本研究会では、個人研究発表とは別に、今年度の特別企画として「音楽科の授業において育成する能力」をテーマに実践紹介及び検討会を行っている。</p> <p>(2)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」の講義の一環として、新しい形の音楽授業の提案として附属小学校にて大学教員が授業を行う。その授業を受講生が観察し、授業分析を行うことで、子どもの姿を通して音楽授業の在り方を提言した。その成果は、日本学校音楽教育実践学会第20回全国大会(於:大阪成蹊大学、2015年8月13-14日)自由研究「うたの背景を意識した表現の授業構成-わらべうた実践の分析を通して-」として発表した。(2016年3月発行予定の同学会紀要にも寄稿している。)</p> <p>(3)アドバイザー・スタッフ派遣 豊見城市立長嶺中学校音楽科授業、指導助言</p> <p>(4)大宜味小学校・津波小学校琉球大体験学習にて「音を楽しむ活動」講師担当</p>		
管理運営	0.20	<p>(1)教育実習委員として、学生の介護等体験・教職体験Ⅱ、附属校教育実習等の実習の円滑な運営を目指す。</p>	0.20	<p>(1)教育実習委員として、教職指導・教職体験Ⅰ・教職体験Ⅱ・介護等体験・教育実習等々の業務に関わった。特に今年度は、介護等部会員として、年間の介護等体験の円滑な運営を図った。</p> <p>(2)主に宜野湾市内の小中学校にて教育実践学専修3年次が実習をする「小学校教育フィールドワークⅡ」の実施に向けての運営に関わった。「小学校教育フィールドワークⅡ」での成果報告については、学生作成の報告レポート集を宜野湾市内小中学校及び宜野湾市教育委員会等に配布予定である。(本科目を運営するにあたり、教育実践総合センターの宜野湾市との地域連携に関わっている。)</p>		
	0.00		0.00			
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>	1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		浅井 玲子	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 生活科学教育	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.50	学部学生・大学院生の指導を丁寧に行い、教員や栄養士として社会に送り出す。希望過卒生の採用試験合格のための支援を行う。中学校・高等学校の教科書を執筆する。小学校家庭科研究会の「沖縄県版 小学校家庭科ノート」の監修を継続して行う。教科書会社に依頼された中学校教科書用指導書のワークシート(住生活分野)を中学校現場の教員と一緒に作成する。			0.50	達成した。今後も、学部学生の多様化に伴って担当科目の内容や方法、進路指導の在り方について更に検討を進めていく必要を感じている。大学院生(栄養士)は現在就職活動中であるため、今後、更なる支援を行う。		
研究	0.25	附属小学校教員との共同研究を行い、小学校の教科教育と関わるテーマで学部紀要論文を投稿予定である。研究生と共同で、ミャンマーの「愛の家小学校」と連携して給食導入のための調査や、親の学校教育に対する意識を調査し、外から日本の教育を見つめる機会とする。			0.25	達成した。「小学校家庭科における児童の実践力と教師の手立て」(学部紀要印刷済み)、「ミャンマー・ガーズタウン村 愛の家小学校における学校給食の試み」(4月投稿予定)の論文2編を作成した。。また、琉球大学女性研究者支援研究費の助成を頂き、附属小学校栄養教諭と共に渡緬し調査する事ができた。		
社会貢献	0.15	免許更新講習講師として、講座「五感で感じる暮らし」を2組開講する。沖縄県教育委員会と琉球大学の連携事業MSP(学びと育ちのプロジェク)の沖縄市美原小学校の担当として学校の支援や連絡調整にあたる。			0.15	達成した。他に沖縄県産業教育審議会委員の依頼を受け、家庭科関係委員として会議に参加し意見を述べた。		
管理運営	0.10	大学院教育学研究科家政教育専修主任、共同研究推進委員、その他委員としての職責を遂行する。			0.10	達成した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		松本 由香		所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教育実践学専
職 名		教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.35	被服学および教育実践学の専門科目の授業準備を充分に行い、専門性の高い教育を行う。そして受講学生の授業目標の達成をはかる。また教育実践学専修2年の担任として、学生生活全般をきめ細かくケアする。		0.45	専門科目の授業については、体系的にできたと思う。特にCOC事業の授業改善に、前期では「衣生活学特講」でアメリジアンスクールでの手芸の出前授業が採択され、後期では「服装文化論」で沖縄の染め織りのつくり手を講師に招いての授業が採択され、それぞれ実践的な授業を展開することができた。また前期の「服飾意匠」でデザイン画を作成し、沖縄ファッション協会FDRのファッショングランプリに応募し、学生2名が受賞したことには、製作指導した自らも得るものが大きかった。教育・学生支援については充実していたと思う。	
研究	0.30	沖縄の染め織りの現在について、地域文化と関わらせて調査研究を継続して行う。具体的には、宮古島での宮古上布糸績み教室の状況、多良間島での染め織り、西表島での節祭とその衣裳、現在の染め織り生産状況等について調査していきたい。 日本家庭科教育学会での共同研究として、外国に由来する子どもの家庭科履修の課題について平成26年度から研究している。特にアメリジアン・スクール・イン・オキナワでの家庭科教育実践を通し、家庭科および手芸のもつ意義・力について考察する。		0.30	今年度から科研費研究に採択され、沖縄の染め織り教材の作成をテーマに、今年度は、本島北部の本部町伊豆味、久米島、小浜島、与那国島について調査研究を行った。この調査から沖縄の染め織りの家族・地域での役割について考察することができた。この研究は、今後さらに3年間継続する予定である。またアメリジアンスクールでの出前授業から、スクール自体の教育について興味を深めたので、今後、学生の卒業研究と関わらせて研究を行っていきたいと思う。	
社会 貢献	0.15	小・中・高校教員を対象にした教員免許状更新講習での衣生活をテーマとする講習会の実施、一般を対象にした被服構成実習の公開講座を実施する予定で、広く地域社会に被服学および被服構成実習を教育する。 志真志にあるアメリジアン・スクール・イン・オキナワで家庭科授業を「衣生活学特講」の授業として受講学生が主体的に行うことを、4月から始める。 実習を通して、家庭科および手芸の生活での意義について教えていきたい。		0.10	教員免許状更新講習での衣服づくり講習会と、一般を対象にした本学公開講座での衣服づくり講座を行った。「つくって着る」ことをテーマに、簡単洋裁を提案し、今後も簡単で魅力あるデザインの開発研究を行い、社会に衣服をつくることを広めていきたい。また上で述べたアメリジアンスクールでの学生とともに行った出前授業でも、社会貢献できたと思う。	
管理 運営	0.15	教育実践学教室で担当する委員会活動およびオープンキャンパス企画・実施を充実して行う。		0.10	教育実践学専修の学生募集にかかわる委員としてオープンキャンパス企画を行い、在学生による説明の調整などを行った。オープンキャンパス実施後の高校生によるアンケートでは、内容は好評であったといえる。	
進路 指導	0.05	ゼミおよび担任の学生の進路の選択について、親身になって助言を行う。 特に教員志望の学生には、被服学内容について助言・教示を行う。		0.05	ゼミや担任の学生の進路について、学生の求めに応じてアドバイスを行った。また生活科学の授業では、中学校教員採用試験の被服実技の過去問題を取り上げ、学生に実習させて受験意識を高める工夫をした。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		佐久間正夫	所 属		教育学部 生涯教育課程 子ども地域教育コース	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	教職専門科目である「教育原理」「教育行政学」「教育法」(以上、学部)の授業では、教職課程で学ぶ学生に、教育の基礎理論を伝えることを主要な目標とし、授業の改善をめざす。また、大学院の「教育行政学特論」「教育行政学特論演習」などにおいては、研究という側面を重視しつつ、上記のねらいの達成もめざす。4年次の卒業研究(6名)と、3年次の研究指導(6名)に対しては、例年と同様、できる限り木目細かな指導を行なう。		0.40	・・・教職専門科目である「教育原理」「教育行政学」「教育法」について、授業テーマに関する資料作成を十分に行なうことができた。資料はどの授業も、No.1～No.70である。また、その際、研究の成果を重視した資料作成や授業構成に努めた。例えば、自らの研究成果である、2006年教育基本法分析の成果や、近現代教育史に関する学生の理解度調査研究で得られた知見を用いた。4年次の卒業研究(7名)と、3年次の研究指導(5名)に関しては、丁寧な指導を行なった。		
研究	0.40	これまで行なってきた、戦前や戦後占領初期の宮古・八重山・奄美、そして、沖縄本島における教育改革に関する基礎的な資料調査・収集・聞き取り調査結果をまとめる。本年は、八重山における戦後初期の教育改革の政策形成について、『学部紀要』(後期)に発表する。また、「教職実践演習」に対する学生の意識調査研究を『学部紀要』にまとめる。教職課程で学ぶ学生の体罰に関する意識についての研究を、『実践センター紀要』にまとめる。		0.30	・・・『学部紀要』第88集に、研究論文「『教育行政学』授業実践報告—教育学部学生の近現代史及び近現代教育史の理解度・定着度を中心に(2)—」を投稿した。また、『教育実践総合センター紀要』第23号には、『教職実践演習』授業実践報告—授業評価アンケート調査を中心に—と題する研究論文を投稿した。なお、本年は、沖縄における戦後初期の教育改革の政策形成について、『学部紀要』(前期)に発表する予定であったが、これについてはできなかった。		
社会 貢献	0.20	教員免許状更新講習の講師を務める(8/18,19:教育の最新事情)。また、九州教育学会開催(12月5日、6日の両日、名桜大学にて開催予定)に向け、理事としての職務に務める。これまでと同様、県内の諸機関・団体から講演等の依頼があれば、できる限り応じる。		0.20	・・・教員免許状更新講習の講師を務めた(8/18,19:教育の最新事情)。琉球新報社から、連載「戦争と教育」(2015年5月11日付『琉球新報』)及び、全国学力調査の結果(同年8月26日付『琉球新報』)などについて意見を求められ、コメントを行なった。		
管理 運営	0.10	子ども地域教育教室1年次生の指導教員を務めているので、年次別懇談会を中心に、特に教員採用試験等に関わる情報提供などを行なっていく。委員会活動については、学生生活委員としての職務をきちんと務める。		0.10	・・・子ども地域教育教室1年次の指導教員として、懇談会を中心に、種々の情報提供を学生に行なった。また、学生生活委員として、教員候補者選考試験対策セミナーのWG長を務め、職務をきちんと行なった。		
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		島袋 恒男	所 属		教育学部生涯教育課程
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	①授業の「出欠・振り返り票」を作成し出欠の確認と授業の振り返りをさせる。学生の成長・就職に関する話題・資料を講義で取り上げ、わかりやすい授業に取り組む(ppt, ビデオ, 学生への問いかけの重視等)。授業で「ショートレポート」を用いて学生の書く力の育成を心がける。②演習・卒論・大学院研究指導において学生の意欲・意見を重視し主体的な学びを育成し、統計指導に基づく研究指導を重視する。③必要に応じて学部の就職支援に参加する④懇談会等・学生の求めに応じて就職相談・採用試験の相談・情報提供をする。⑤エントリーシートや志望理由書の添削指導を実施する。		0.30	出席票により毎回出席をチェック。各時間簡単な振り返り実施。PPTによる授業の実施。ビデオにより青年心理学では青年期の発達・職業、進路指導の心理学では職業とキャリア教育の実際を取り上げ学習に取り組ませ、記述・まとめる力の育成を重視。統計は演習重視。卒論二人・修論二人指導論文完成。次年度卒論1名、修論では4名の構想発表させる(3月・4月予定)。3年生を就職センター「教採セミナー」に紹介。学校ボランティア2名紹介。
研究	0.25	①学力向上の実践に関するデータを論文として公表する。 ②大学生のキャリア教育と支援に関する研究に取り組み論文等を発表する。③上記に関する学会発表を行う④前年に引き続き学外との学力向上の共同研究に取り組む(MSP検証)。		0.20	「学力向上に関する研究発表1件(MSP)」。IAEVG(国際キャリア学会)で「高校生の進路指導と進路発達、進路発達と学習動機・学習方略」の2件発表。学力・キャリア発達の論文は未完成。その他複数の小学校での学力向上の企画に参加。
社会貢献	0.25	①小学校数校の学力向上に関して連携し実践する(予定) ②必要に応じて学力向上・キャリア教育に関する教育委員会と学校現場への支援・研修等に従事する ③教員免許更新講習に従事する。④小学校学校評議員に従事する。MSP事業に従事し検証調査の実施と報告書作成。アドバイザーに従事。⑤教委委員会に参加する。		0.30	MSPに参加し小学校との連携で「学力向上のための研修と学力向上の実施に従事し、校内研修会と授業研究に参加、学生も参加させる。3小学校の「学校評議員」に従事。・アドバイザーとして5件の「学力向上」の講演。「免更新・認定講習に従事。・県「公立私立高校協議会」に従事。県教委「教員選考改善委員」那覇市「青少年協議会委員。県産業教育審議会、県教育委員会点検・評価委員会委員。
管理運営	0.20	①学部コース主任、4年次指導教員。		0.20	子ども地域教育コース主任として学科運営に従事。4年生指導教員に従事。
				0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		道田 泰司	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教育実践学専
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を行う(ゼミ, 集中講義も含め, 前期週9コマ, 後期週8コマ) ・丁寧な授業準備と授業改善 ・受講生から授業改善のための積極的な意見の聴取, それに基づく振り返り ・ゼミ所属学部学生(計7名)を中心とした教育実習の視察・指導助言, 進路相談・指導など ・2年次指導教員として学生への進路相談 		0.25	<p>前後期とも, 登録者のいない授業を除き, 予定通りに授業を行った。毎回の授業に際しては, 前年度の反省を活かし, 改善をしつつ行った。ほとんどの授業で, 学生に毎時間振り返りカードを書かせることで, 学生からの意見聴取を行った。</p> <p>ゼミ生を中心に実習視察, 助言等を行った</p> <p>2年次学生の進路やゼミ決めについての相談活動を行った</p> <p>共通教育科目でプロフェッサー・オブ・ザ・イヤー(人文系科目)を受賞した</p>
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・データ収集, 分析, 学会発表, 投稿(科研費のプロジェクト) ・研究関連の情報収集 ・論文執筆 ・書籍などへの原稿執筆, 編集など 		0.20	<p>科研費プロジェクトのデータ収集・分析／別の科研費プロジェクトの計画立案補助／書籍(分担執筆)1冊刊行, 1冊編集中／紀要論文1本刊行, 2本投稿中／全国学会で発表2件</p>
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許更新講習の講師 ・その他研修会における講師 ・小中学校などにおける校内研講師 		0.15	<p>免許更新講習(必修領域:2日間)／小学校1校, 中学校4校で校内研講師(うち1校は3回, 1校は2回)／金沢大学附属小学校・教育研究発表会にて講師／国頭教育事務所研究主任研修会にて講師／宜野湾市管理職研修にて講師</p>
管理 運営	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実践学専修, 大学院心理学コースにおける入試業務遂行 ・教育実践学専修で, 複数教員で持つ科目や行事の企画運営(小学校教育フィールドワーク, 教職実践演習など) ・教職大学院ワーキンググループとして ・附属中学校校長として 		0.40	<p>複数教員で持つ授業科目運営に協力した／入試業務に従事した(学部, 大学院とも)／教職大学院準備会議メンバーとして教職大学院の企画に携わった。／附属中学校校長として, 管理運営の一翼を担った</p>
				0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		井上 講四	所 属	教育学部生涯教育課程子ども地域教育コース	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、一般の授業数、しかも大人数クラスが沢山あり、授業準備等大変ではあるが、受講学生の学修意欲を高める工夫を行うとともに、中途挫折や不可の学生を、可能な限り出さないようにする。 ・ゼミ指導においては、ゼミ生が昨年度より増えたので(4年次2人、3年次5人)、チームワークを生かし、密度の濃い指導を心がけるとともに、指導学生の進路選択あるいは就職等に対して、可能な限りの支援を行う。 		0.40	一応、目標は達成できたと考えている。	
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・所属学会・各種研究会等への参加及び自主開催(教育協働研究会)を行うとともに、その研究成果等を論文・公開発表する。 		0.20	研究活動そのものは今一つであったが、自主開催の研究会等は、充分成果を挙げたと考えている。	
社会 貢献	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・所属学会での職務(評議員)を、今年度も引き受けるとともに、今年度は、さらなる社会貢献として、「全国学社融合フォーラム」(11月)を沖縄に誘致し、上記教育協働研究会の成果を県内外の関係者と共有する。 		0.30	上記の記載内容のように、かなりの社会貢献はなしたと考えている。	
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、大学全体及び学部運営の職務はないが、コースの年次指導教員(2年次)として、及び教育実践総合センターの運営委員及び共同研究推進委員として、学部内の管理運営に関わる。 		0.10	一応、最低限の責任は果たしたと考えている。	
				0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		上地 完治	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教育実践学専	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	専修専門科目(必修)「教職実践演習入門」を、大学生として必要な基礎的能力・学力育成の観点から改善する。また、1年生の年次指導教員として新生を大学生生活に適切に導く。		0.30	「教育実践学入門」の改善はある程度は達成できたが、まだまだ改良の余地がある。1年次指導教員として新生に指導・アドバイスをおこなったが、もう少し積極的にアドバイスをして、学習・学生生活の充実を促したかった。	
研究	0.25	科研費(基盤研究B)による道徳教育研究を研究代表として申請しており、採択されれば他大学との共同研究者と道徳教育の実践的な研究を進めていく。また、他大学の研究代表者が計画している科研費(基盤研究C)によるシティズンシップ教育に関する研究にも力を入れる。		0.20	科研の申請は採択されなかったが、本の出版(上地完治・西本裕輝『沖縄で教師をめざす人のために』協同出版)や論文の執筆(「道徳の教科化の意味—道徳の時間の特設から積み残された課題」教育哲学会編『教育哲学研究』第112号)をおこなった。	
社会貢献	0.20	沖縄県と教育学部が提携している学力向上先進地域育成事業(MSP)課題設定系委託型プロジェクト代表者として、中城南小学校をはじめ研究指定地域の小・中学校での道徳授業改善に積極的に取り組む。また、アドバイザー・スタッフ派遣事業を活用した研究指導助言にも取り組む。		0.20	中城南小学校、嘉数中学校、沖縄市立中の町小学校で継続的に道徳授業に関するしどうをおこなった。	
管理運営	0.30	全学的には琉球大学教員免許状更新講習実施室長、教員養成運営協議会委員、教員養成運営委員会委員として、学部内では教育研究企画委員(大学院WGや学部WG)、教育実践学専修主任、教育学講座世話人として、大学・学部に貢献する。		0.30	教員免許状更新講習実施室長、学部改組WG、教育実践学教室主任、教育学講座世話人として最低限の仕事はできたが、膨大な仕事量に振り回されて至らない点が多かった。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	清水 洋一		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 技術教育専修		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	1)前期・後期合わせて学部15科目(卒業研究Ⅰ・Ⅱ含む)、大学院6科目(課題研究ⅠA・ⅠB及びⅡA・ⅡB含む)の講義・実習等を行う。2)卒業研究及び修士論文の指導を行う。3)附属中学校の研究授業の支援や教材開発を協同行なう。5)外国人留学生(研究科1名)の指導教員を務める。6)総合環境学副専攻・「総合環境学概論」を2コマ担当する。7)教員採用試験対策の一環として、講義・実習等を通して、関連する過去問題について解説する。		0.30	1)前期・後期合わせて学部13科目(卒業研究Ⅰ・Ⅱ含む)、大学院6科目(課題研究ⅠA・ⅠB及びⅡA・ⅡB含む)の講義・実習等を行った。2)卒業研究1名及び修士論文2名の指導を行った。3)附属中学校の研究授業の支援や教材開発を支援した。5)外国人留学生(研究科1名)の指導教員を務めた。6)総合環境学副専攻・「総合環境学概論」を2コマ担当した。7)教員採用試験対策の一環として、講義・実習等を通して、関連する過去問題について解説した。		
研究	0.35	1)日本エネルギー環境教育学会や日本産業技術教育学会等において研究発表を行う。2)沖縄エネルギー・環境教育研究会の代表を務め研究・教育実践を行う。3)国際会議(タイ国・バンコク)において研究発表を行う。4)海を活かした教育PJにおいて、海洋エネルギーに関する教材開発及び教育実践を行う。5)他大学との海洋エネルギー教育の共同研究を推進する。		0.35	1)日本エネルギー環境教育学会第10回全国大会(京都教育大学)において1件、日本産技学会第58回全国大会において1件、同学会第28回九州支部大会において2件の研究発表を行った。2)沖縄エネルギー・環境教育研究会の主催で、県外のエネルギー関連施設見学会を2回企画・実施、栗國中、南大東中において授業実践を行った。3)国際会議における研究発表は行わず。4)海を活かした教育PJにおいて、海洋エネルギーに関する教材開発及び教育実践を行った。5)宮崎大学と海洋教育の共同研究を行った。		
社会 貢献	0.20	1)平成27年度琉球大学公開講座を実施する。2)小・中学校等へ出前授業を実施する。3)沖縄の産業まつり、県民環境フェア等にて、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行う。4)琉球大学生協・理事長を務める。5)那覇市温暖化対策協議会・会長を務める。6)環金武湾地球温暖化対策地域協議会・会長を務める。7)沖縄地方コージェネ協議会の会長を務める。8)スマートコミュニティ関連PJの委員を務める。9)琉球大学サテライトキャンパス等において出前講座を実施する。10)教員免許状更新講習の講師を務める。		0.25	1)平成27年度琉球大学公開講座を2回実施した。2)南城市立大里南小、那覇市立識名小・高良小・さつき小、恩納村立仲泊小・中において出前授業を実施した。3)第39回沖縄の産業まつり、県民環境フェアin沖縄ライカム、識名っ子祭り(識名小)、沖縄ガス祭りにおいて、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行った。4)琉球大学生協・理事長を務め、九州PCカンファレンスを開催した。5)、6)、7)、8)那覇市温暖化対策協議会会長、環金武湾地球温暖化対策地域協議会会長、沖縄コージェネ協議会会長、那覇市スマートコミュニティFS事業検討委員会委員長、那覇市天然ガス利活用検討委員会委員長、石垣島バイオマス発電検討委員会委員を務めた。9)琉球大学那覇SCIにおいて出前講座を実施した。10)教員免許状更新講習の講師を務めた。11)沖縄県委託事業・サイエンスリーダー育成講座(中学生4回、高校生2回)の講師を務めた。12)沖縄青少年科学作品展のアメリカンスクール作品審査会の委員長を務めた。		
管理 運営	0.10	1)教室主任及び専修主任を務める。2)全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員を務める。3)共同研究推進委員会委員を務める。4)教育実践総合センター運営委員を務める。5)財務・施設管理に関する自己点検・評価委員会委員を務める。		0.10	1)教室主任及び専修主任を務めた。2)全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員を務めた。3)共同研究推進委員会委員を務めた。4)教育実践総合センター運営委員を務めた。5)財務・施設管理に関する自己点検・評価委員会委員を務めた。		
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		小野寺 清光	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	①電気電子系講義に関し、実践的な教育力を養なうことを目的に、小中学校の教材開発に資する実習内容を積極的に取り入れていく。 ②附属中体験授業(7月)を実施する。 ③学生支援・指導専門委員会委員長、就職センター運営委員会委員として、就職支援・進路指導に取り組む。		0.20	①電気電子系講義においては、ブレッドボードを用い自ら回路を考える実習を増やし、また、計測・制御に関連するロボット製作などの教材開発を取り入れた。 ②附属中3年生を対象に、「情報通信技術とグローバル化」と題し、コンピュータと情報通信の発展、及びそれに伴う社会への影響に関する体験授業を実施した(7月)。 ③学生生活委員会委員長として、新入生合宿、教員採用試験対策セミナーや認定試験の運営を継続的に推進すると共に、学生委員会委員を通じて、就職活動支援事業へ学生が積極的に参加するよう定期的な情報提供を実施した。
研究	0.20	①中学生向け二足歩行ロボットの教材開発及びシミュレーション構築に取り組む。 ②小中学生向けLEDを用いた工作教材開発を実施する。 ③圧電素子を用いた発電床試作法を構築する。		0.30	①二足歩行ロボット教材(チェビシェフリンクと遥動スライダリンク)のリンクによる歩行の違いに関し、産技学会九州支部へ論文として投稿し採録が決定した(12月)。 ②附属小学生に対し電磁石学習に関連するスピーカ教材を開発して研究授業を実施した。また、附属中学生に対しラジコンプログラミング教材を開発して研究授業を実施した。
社会 貢献	0.10	①教員免許状更新講習の講師として現職教員教育に貢献する。 ②日本産業技術教育学会九州支部理事として学会運営に取り組む。		0.10	①「LEDを用いた実験とものづくり」と題して、小学校から高校の現職教員に対し、教員免許状更新講習を実施した(7月)。 ②日本産業技術教育学会九州支部理事として学会運営に取り組んだ。九州支部大会にて発表された2件の論文の査読を実施した。
管理 運営	0.40	①副学部長及び学校教育教員養成課程長として、学部運営・将来構想企画に取り組む。 ②学生生活委員会委員長として、学生指導及び委員会の運営を実施する。 ③全学情報システム運用委員会の部局技術責任者として、部局委員会の運営に取り組む。		0.40	①副学部長として、H28教職大学院設置やH29学部改組に関わる学部運営・将来構想企画に取り組んだ。 ②学生生活委員会委員長として、年間7回の委員会を開催し、学生の生活指導・就職学修支援等に関わる運営に取り組んだ。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	福田 英昭		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 技術教育専修	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	①「職業指導」(前期および夏の工学部集中講義)の毎回の講義内容を公開するため、研究室のホームページを毎週更新する。②前期の講義「木材加工基礎」、「木材材料学」および「職業指導」を一般向けの公開授業に設定する。③4年前から新設開講された前期の「小学校ものづくり実習Ⅰ」および後期の「小学校ものづくり実習Ⅱ」の講義の新規教材開発を行う。④研究成果の内容を「木材材料学」の講義内容に反映させる。⑤講義「ものづくり」において、新規の製作題材を開発する。⑥3年次の指導教員として、技術教育専修学生と大学院生の履修指導等を行い、進路相談を行う。⑦「職業指導」の講義で受講学生に最新の就職関連情報を提供する。⑧技術教育同窓会の書記・会計担当者として、本年度開催される「技術教育同窓会の総会」の企画、案内状送付、運営を行い、また、技術教育専修の卒業生の動向をチェックし、会員データベースを最新のものにする。		0.30	①「職業指導」を前期および夏期集中講義で実施し、講義用のホームページを毎週更新した。②一般向けの公開授業として設定した前期の「木材材料学」では1名の一般受講者がいて、活発な質疑応答ができた。③前期の「小学校ものづくり実習Ⅰ」および後期の「小学校ものづくり実習Ⅱ」では、紙漉き用の簀桁や、火起こし器などの新たな教材開発を行った。④研究成果の内容を「木材材料学」に反映させた。⑤「ものづくり」では、学生たちに新規でカンカラ三線、指編みマフラーなどの28製作題材を発表してもらった。⑥3年次指導教員として、履修指導や進路相談を行った。⑦「職業指導」では最新の就職関連情報を提供し、ゲスト・ティーチャーを招いて講話をしていただいた。⑧技術教育同窓会の書記・会計担当者として、会員名簿の更新を行ったが、本年度予定させていた総会は開催見送りとなった。	
研究	0.30	①研究室の紹介および研究成果を紹介するため、研究室のホームページを更新する。②研究課題「児童・生徒の教室用机・椅子の検討」のデータを分析し、教育学部紀要に論文を投稿する。③前村(社会)、岡本(技術)、仲間(美術)先生と共に4年前からスタートした紙漉き研究会を継続し、紙漉きの新しい教材・教具(簀桁など)を開発し、県委託事業の申請型プロジェクトとして地域の小・中学校で紙漉き体験学習を実施する。また、紙漉きに関する論文を本年度も学部紀要等に投稿する。④外部資金の「沖縄の教育機関におけるアオガンビ等の和紙材料植物栽培と和紙抄造の教材化に関する研究」(平成25～26年度一般財団法人 沖縄美ら島財団 調査研究・技術開発助成事業、2013年8月～2015年7月、金額685千円、研究代表:福田)を継続し、報告書を作成する。⑤東京書籍株式会社の中学校教科書「技術・家庭科」編集協力委託委員を担当し、教科書の編集を行う。		0.30	①研究室のホームページでは「職業指導」関連の更新は頻繁に行ったが、研究室紹介と研究成果紹介の更新は不十分であった。②「児童・生徒の教室用机・椅子の検討」のデータ分析はできたが、学部紀要に投稿するまでには至らなかった。商業雑誌「テルチンびと」(風土社)から依頼のあった記事「子どもの体に合った家具の選び方」について執筆することができた。③前村、岡本、仲間先生と共に進めている紙漉き研究会を継続した。県委託事業(MSP)の申請型プロジェクトとして、9月に沖縄市立美原小学校6年生(180名)を対象に3日間の紙漉き体験学習を開催し、10月に中城村立南小学校3年生(90名)を対象に2日間の紙漉き体験学習を実施した。また、8月には、一般社会人向けに、和紙づくり工程が体験できる研修会(3日間)を開催した。④沖縄美ら島財団の助成事業に採択された「沖縄の教育機関におけるアオガンビ等の和紙材料植物栽培と和紙抄造の教材化に関する研究」の報告書を作成した。また、教育学部紀要に共著論文「学校現場におけるアオガンビ栽培の事前調査」(2月発行予定)と、教育実践総合センター紀要に共著論文「沖縄県の小学校と地域の児童を対象とした紙漉き体験授業の実践」(3月発行予定)を投稿することができた。⑤中学校教科書『新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology』(2016年4月発行、2015年2月検定済)の編集委員を担当した。	
社会貢献	0.25	①沖縄県立芸術大学において開講される「図法及び製図」(通年)の非常勤講師を担当する。②3年目となる県委託事業「学力向上先進地域育成事業」の指定地域系委託型プロジェクトの沖縄市グループのチーフとして、指定校5校の学びと育ちの支援活動を行う(沖縄市の委託型プロジェクトの配分予算は700千円を予定)。また、沖縄市立越來小学校の研究授業を支援する。③沖縄県立南部商業高等学校 学校評議員を担当する。		0.25	①沖縄県立芸術大学で「図法及び製図」を通年で担当した。②県委託事業(MSP)の指定地域系委託型プロジェクトの沖縄市グループのチーフとして、指定校5校の学びと育ちを支援する活動を行い、宮里小学校でのサマー・スクールへ学生と共に訪問し、学習支援活動を行った。また、宮里小学校の小中連携授業研究会では、研究授業の指導助言者を担当した。また、沖縄市グループの活動報告書の執筆を担当した。③沖縄県立南部商業高等学校の学校評議員を担当した。④沖縄県立宮古工業高等学校で1～2年生(158名)を対象に、1月にキャリア教育の講話を行った。⑤日本産業技術教育学会誌 九州支部論文集の査読1件を担当した。⑥日本木材学会九州支部の理事および評議員を担当した。	
管理運営	0.15	①学部の教育実習委員として、介護等体験部会を担当し、企画・運営する。②日本教育大学協会 九州地区技術教育部門の全国委員として各種調査に協力する。		0.15	①学部の教育実習委員の介護等体験部会長を担当し、講義「介護等体験指導」の講話(7回)と車椅子介助実習を企画・運営した。②日本教育大学協会 九州地区技術教育部門の全国委員としての大きな仕事は本年度はなかった。③学部の教員選考委員として、数学、幼児教育、実践センター、音楽、理科の昇任・採用5件を担当した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新垣 学	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 技術教育専修	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・組込型コンピュータを利用した教材を授業に取り入れる。 ・学生が学習結果を発表および卒業後も復習できるように、ホームページを製作する能力を養成するとともにその更新を支援する。 ・学生へ学習環境を提供するため、ネットワーク及びコンピュータの管理。 ・教育実習生への指導・助言 ・1次指導教員として進路指導を行う。 ・就職支援のために認定試験問題の作成を行う。 			0.45	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて担当する情報科学演習の授業に向けて、情報処理センターで提供されているeラーニングシステムのWebClassにテキストを作成した。 ・組込型コンピュータを利用した自立走行車の製作を授業に取り入れた。 ・学生が学習結果を発表および卒業後も復習できるように、ホームページを製作する能力を養成するとともにその更新を支援した。 ・学生へ学習環境を提供するため、ネットワーク及びコンピュータの管理を行った。 ・教育実習生3名の授業を観察し、指導・助言を行った。 ・1年次指導教員として進路指導およびメールによる情報提供を行った。 ・認定試験問題として中学校技術および一般教養の情報と、中学校技術の栽培分野の問題作成を行った。 		
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を鑑みた組込型コンピュータを利用した教材開発。 ・教員免許更新講習用教材の開発 			0.35	組込型コンピュータを利用した教材を開発し、教育学部紀要にまとめた。これは教員免許状更新講習でも利用可能。		
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許状更新講習を開講する。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許状更新講習を2回行った。 		
管理 運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・発明審査委員会の委員としての業務を行う。 ・エコジカルキャンパス推進委員会の委員としての業務を行う。 ・教育委員会委員としての業務を行う。 ・図書紀要委員としての業務を行う。 ・1年次指導教員としての業務を行う。 ・入試に関する問題作成および、監督又は警備を行う。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・発明審査委員会の委員として業務を毎月行った。 ・教育委員会委員としての業務を行う。 ・図書紀要委員委員として業務を行った。 ・1年次指導教員としての業務を行った。 ・入試に関する問題作成を行った。 		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		萩野 敦子	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 国語教育専修	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	①担当する学部および大学院の国語科関係の科目において、それぞれシラバスに掲げた目標への到達をめざす。②古典文学で卒業論文を執筆する学生のほか、漢文学で執筆する学生に対して(担当教員が空ポストのため)論文指導を行う。また大学院のゼミ生の指導を行う。③2年次の指導教員を務める。④一人でも多くの学生あるいは卒業生が教員採用試験に合格できるよう、小論文指導を行う。また、認定試験の作成を行う。⑤教育学部事業として「コックさん学校」の世話役を務める。			0.30	①担当する学部および大学院の国語科関係の科目において、それぞれシラバスに掲げた目標を達成できた。(前学期の学生評価も良好。)②古典文学で卒業論文を執筆する学生のほか、漢文学で執筆する学生に対して(担当教員が空ポストのため)論文指導を行った。(大学院生は休学。)③2年次の指導教員を務めた。④教員採用試験に合格した4人の4年次生のいずれにも、小論文等の指導をした。認定試験の作成と取りまとめを行った。⑤教育学部事業として「コックさん学校」の世話役を務めた。／以上、目標どおりに活動した。		
研究	0.25	①平成24～27年度科学研究費助成研究「近世琉球和文学の考究および沖縄版『伝統的な言語文化』としての教材化」を着実に進める。②所属している狭衣物語研究会で、主として本文研究の面で発表を行う。③国語教科書の古典作品ないしは伝統的な言語文化作品の教材のありようについて論考をまとめる。			0.20	①研究に割く時間が思うように取れなかったが、科学研究費助成研究に必要な調査を進めた。②全国の研究者が集まる研究会で、古典作品の本文研究についての発表を8月に行った。3月にはラウンドテーブルのコーディネータを行うので現在準備を進めている。③『源氏物語』の高等学校国語教科書教材を分析した論文が、2月中に公になる予定である。／以上、目標どおりに活動した。		
社会 貢献	0.25	①県委託学力向上事業の浦添市グループチーフおよび沢岷小学校担当を務め、教育現場との協働を深める。②教員免許状更新講習に講座を提供、夏休み期間に実施した。③アドバイザースタッフとして、南城市の中学国語教員への講座などを行った。④琉球新報社「高校生読書体験記コンクール」審査員を務めた。⑤目標設定の後に、教員養成評価開発研究(東京学芸大学を中心とする)の評価員を依頼され、携わった。／以上、目標以上の活動をした。			0.25	①県委託学力向上事業の浦添市グループチーフおよび沢岷小学校担当を務め、教育現場と協働した。中城南小学校にも関わった。②教員免許状更新講習に講座を提供、夏休み期間に実施した。③アドバイザースタッフとして、南城市の中学国語教員への講座などを行った。④琉球新報社「高校生読書体験記コンクール」審査員を務めた。⑤目標設定の後に、教員養成評価開発研究(東京学芸大学を中心とする)の評価員を依頼され、携わった。／以上、目標以上の活動をした。		
管理 運営	0.25	①全学では、研究推進戦略会議委員、ジェンダー共働推進室委員、学術研究助成金選考委員会委員を務める予定なので、それらの責務を全うする。②学部では、教育研究企画委員として将来構想に関わる。③国語教育教室から二つの委員会の委員を併任し、責務を全うする。④入試業務に携わる。			0.25	①全学では、ジェンダー協働推進室委員、学術研究助成金選考委員会委員を務め、責務を全うした。②学部では、学部改組WGの一員を務めた。③国語教育教室からの教育委員と入試委員を務めた。④入試については前期日程「国語」の問題作成委員長を務めるとともに、全学点検委員としての業務を行った。／以上、目標以上の活動をした。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	武藤 清吾		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 国語教育専修		職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.65	教科教育担当教員として、授業の充実及び専修所属学生ならびに他学部・専修学生の学習活動の支援を行う。4年次担当教員として、学生生活の充実、就職、進学のための指導助言を行う。		0.50	国語科教育法などの講義科目、ことばの教育演習などの演習科目を開講して学生の学習活動を支援した。また、法文学部の国語科教員免許取得希望者の指導を行った。その際、学生による授業評価を毎回行い、その意見を毎時の授業通信に反映した。模擬授業準備に必要な指導助言を授業外で多くの時間を割いて行った。演習科目受講学生と合宿を行い、学生の学習活動を支援した。4年次担当教員として、学生の進路相談に取り組み、必要な指導助言を行った。すべての担当学生(休学1名を除く)が卒業することになり、大学院進学、正規教員就職者、教員採用試験準備の道に進むことになった。		
研究	0.20	専門領域での研究活動を積極的に遂行して、その成果を社会に公表していく。また、学部附属中学校での国語科共同研究者としての業務を遂行して、附属学校での研究活動の発展に資する。さらに、科学研究費補助金、その他研究助成に積極的に応募し、研究活動を発展させる準備を行う。		0.25	国際芥川龍之介学会紀要に査読単著論文1本を公表し、日本児童文学学会研究大会で口頭発表1回を行った。共著書の1章を分担執筆した。2018年度刊行の事典編集委員長として活動した。九州教育学会に入学して名護での研究大会に参加して、沖縄での教育の現状を把握するための活動を行った。また、学部附属中学校での国語科共同研究者として、年2回の公開授業と研究発表会に参加して指導助言を行い、研究紀要作成に助言を行った。さらに、科学研究費補助金、三菱財団公募に応募し、その結果待ちである。		
社会 貢献	0.10	主に中学校・高等学校と連携して、教育現場での教育力の向上に資する支援活動を行う。また、学会活動として、専門学会での理事としての職務を遂行して、学会の研究水準の向上と社会貢献に資する活動を行う。附属図書館のびぶりお文学賞選考委員としての職務を遂行して、図書館及び大学の広報活動に貢献する。		0.20	那覇市教育委員会の夏期研修での講義、沖縄市立小学校での小中連携公開授業の指導助言、中城村立中学校での授業参観を学生とともに行ったが、中学校・高等学校での支援活動は不十分であった。また、日本児童文学学会理事としての職務、国際芥川龍之介学会での指定討論者、永平寺名古屋別院祭りでの講演を行った。2016年8月開催の日本国語教育学会沖縄大会の準備活動を行った。附属図書館のびぶりお文学賞選考委員として第9回びぶりお文学賞小説部門の選考を行った。琉球新報社児童文学創作公募の選考委員として2016年度公募の打ち合わせを行った。2015年度全国学力・学習状況調査の沖縄県中学校国語の結果について分析して、琉球新報、沖縄タイムスに分析結果を公表した。同調査の2013・14年度調査の結果分析を行い、科研費による学内共同研究プロジェクトの研究分析に協力した。		
管理 運営	0.05	学部学生生活委員会としての業務を遂行する。特に、認定試験WGとして、学生の教員採用試験対策を支援する学部認定試験の準備、遂行に積極的に参画して、教員採用試験合格者数増に貢献する。また、委員会委員としての業務を支障遅延なきよう着実に遂行する。		0.05	学部学生生活委員会委員、認定試験WGとして、学部認定試験の計画立案に参画して、学部全体及び国語科の教員採用試験合格者数増に貢献した。新入生オリエンテーション合宿については参加できなかった。また、委員会委員としての業務を支障遅延なきよう着実に遂行し、良好な結果を得た。		
	0.00			0.00			
計	1.00	赴任初年度であるため、学部教職員に積極的に相談して、上記目標を達成すべく努力する所存である。		1.00	学生生活委員としてのオリエンテーション業務以外は、教育・学習支援、研究、社会貢献の分野で概ね目標を達成できた。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		里井 洋一	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 社会科教育講	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	7年ぶりの1年担任である。担任の仕事は大きく替わり、特に教員養成としての学生の成長をどう見守り、どう援助するか。特に大学における学生の学びを、彼らとの「話し合い」によって、確認・共有をはかっていくことを目標としたい。			0.20	毎月、1年生と懇談する機会を持つことにした。前期は昼休みに、それぞれの育ちを共有し、私の教員としての経験を語ると共に、教員への抱負を語ってもらった。後期は一コマ設定し、教員採用試験を通して、どういう資質を求めているのかを読み解いていく授業を行った。また、小中で教員採用試験に合格した4年生、民間企業に就職しその上で教員になりたいと言っている4年生に4年間の学びを語ってもらった。		
研究	0.30	本年度の研究の重点は沖縄の平和教育史を整理し、一定の成果をまとまえたい。			0.30	平和論のテキストととして、沖縄の平和教育史を原稿としてまとめ、共同での検討作業をおこなった。		
社会 貢献	0.20	今年度の社会貢献は下記の二つの市町村史を仕上げることにあ る。①のろの経済基盤に関する研究を北中城村史に原稿を提出す ること、②竹富史 西表島の交通運輸史の資料収集と原稿構成をす ること、			0.20	①のろの経済基盤に関する研究を北中城村史に原稿を提出した。②竹富 史 西表島の交通運輸史の資料収集を行い、原稿構成を構想した。、		
管理 運営	0.30	学部運営会議のメンバーとして、教職大学院では、教育委員会・連携 協力校との関係を丁寧につくりあげ、28年度発足を支障なく迎えるこ とを目標とする。また、法人評価にかんしては、多くの教員の協力の もと、地域にねがず大学らしい現況調査と報告を編み出したい。			0.30	学部運営会議のメンバーとして、教職大学院では、教育委員会・連携協力 校との関係を丁寧につくりあげ、28年度発足を支障なく迎えることの目処が たった。また、法人評価にかんしては、多くの教員の協力のもと、地域にね がず大学らしい現況調査と報告を作成した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定して ください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高良 倉成	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 社会科教育専	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	経済学概論, 国際経済論, 経済学特殊講義, 経済学演習, 経済時事問題演習など, 講義資料の改善を図りながら担当する。			0.25	予定どおりに各授業を行った。テーマを絞り込んだ国際経済論は, 学生の理解度も好転したような印象を受ける。		
研究	0.20	『社会学評論』(社会学会)投稿論文は, レフェリー応酬の最終段階であり, 年度の早い段階での掲載を実現する。今年度の最大の目標は, 世界経済の不均等発展過程を考証するうえでのもう1つの総決算テーマである「資本主義の表象の変遷」についての研究ノートを整備すること。			0.20	最終応答を終えたにもかかわらず, 「社会学評論」編集委員会の反応リズムは悠長なもので, 掲載号についての連絡はいっこうにこない。他方で, 10月に『季刊・経済理論』(経済理論学会)に投稿し, 受理された。		
社会貢献	0.05	日本教育大学協会の企画委員会委員として, その任務を果たす。			0.05	企画委員としての任務を果たした。		
管理運営	0.50	教育研究評議員, 学部教育委員会委員長, 研究科教務委員会委員長などの職責を果たす。			0.50	それぞれ該当する職責を果たした。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		田中 洋	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 社会科教育専修
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.50	シラバスを基にしつつ、当該学生の状況に応じて、適宜柔軟に修正を図りながら、学生の理解に資するように授業を行う。特に、受講学生の人数やその所属等については、授業を進めるうえで、十分な配慮を心がける。 また、3年次指導教員として、附属学校教育実習を中心とした学習の援助を図るとともに、懇談会等を通じて、卒業後の進路への意識を高めるように努める。		0.50	授業については、それぞれの規模や学生の所属等を考慮して、できるだけ学生が主体的に授業に臨むような工夫を行った。100人を超える共通教育の「憲法概論」では、期末試験以外にも簡単なレポートを課す一方で、少人数の授業では、分担を決めて発表を課すなどした。 3年次指導教員としては、附属学校教育実習での教壇実習をできるだけ見に行くなど、状況の把握に努めた。
研究	0.30	科研費の採択課題である「災害発生時における学校の法的責任」について、今年度が最終年度であることから、適切にまとめるべく研究を進める。		0.20	科研費の採択課題である「災害発生時における学校の法的責任」についての研究が、対象判例の予想外の不足などで思うようには進まず、やむを得ず研究期間を延長する予定である。
社会 貢献	0.05	教員免許状更新講習の講師として、学校現場でより役立つ講義となるよう、提示する具体例などの内容を工夫する。		0.05	教員免許状更新講習の必修領域の一部を担当し、石垣会場で講義を行った。その際、できるだけ学校現場の状況を踏まえた内容となるよう、具体例の提示などに努めた。
管理 運営	0.15	講座・教室主任として、講座・教室の運営が円滑に進むように努める。 また、教職大学院準備会議の一員として、来年度設置に向けた準備を着実に進める。		0.25	原則として週1回開かれる講座・教室会議の主宰を始めとする、講座・教室主任としての責任を果たすべく、講座・教室の円滑な運営に努めた。 また、教職大学院準備会議の一員としては、来年度設置が決定するとともに、次年度に向けた準備を、担当者と協力して進めてきた。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		真栄平 房昭	所 属	教育学部 生涯教育課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.50	歴史学の視点をふまえ、過去と現代との関係を学び、社会を認識する		0.50	ゼミでは、目標をほぼ達成できた。	
研究	0.20	科研費テーマ:「国境未満」—近代東アジアにおける国境問題についての研究)		0.20	目標をほぼ達成できた。	
社会貢献	0.10	市民講座への出講を行うこと		0.10	那覇市中央公民館主催の市民講座に2回出講し、目標をほぼ達成できた。	
管理運営	0.20	委員会委員		0.20	目標をほぼ達成できた。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	白尾 裕志		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教育実践学専修 職 名 准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.50	(1)「社会科教育研究」では、学生が①教材の開発方法、②授業の展開方法、③児童の掌握方法を理解し、授業構想が立てられるようにする。 (2)「生活科教育研究」においては、生活科が児童の生活を学校(教育)で自由に表現できる仕組みをつくるのが最も重要であることを実践の分析を通して理解できるようにして、授業構想が立てられるようにする。 (3)3年次のゼミ指導では、代表的な社会科教育実践から社会科の授業構想に必要な条件について実践の分析を通して理解し、見識を深め、卒論構想を立てることができるようにする。4年次の卒論指導では、構想指導、論考、記述について指導を重ねて論理展開の整った指導を展開する。		0.45	(1)「社会科教育研究」では、学生の授業構想力の育成に向けて、①授業分析、②授業構想演習、③見本授業を示し、授業構想を指導案として表せるようになった。 (2)「生活科教育研究」では、生活科の本質についての理解を先行実践や学習指導要領から学び、授業構想につながる指導をした。授業構想を指導案として表せるようになった。 (3)3年次のゼミ指導では、代表的な社会科教育実践から社会科の授業構想に必要な条件について実践の分析を通して理解し、見識を深め、卒論構想を立てることができるようになった。4年次の卒論指導では、構想指導、論考、記述について指導を重ねて論理展開の整った指導を進めたが、構想の詰めが甘いことから、仕上げに手間取った学生もいた点は反省点である。
研究	0.30	(1) 社会科教育実践における知識、理解、思考を駆使した価値判断について焦点を絞りながら分析を進め、特徴をまとめる。 (2) 教育社会学が明らかにしてきた学力についての研究成果を基に学校現場での学力向上に向けた実践的提案についての研究を進める。 (3) 学習指導要領と教育実践における生活科の25年を概観して、その変化と課題についての研究を進める。		0.20	(1) 本年度は社会科に限らず、思考・判断・表現力等の汎用的能力が求められる歴史的な背景について研究を進め、特徴をまとめ、浦添中学校の校内研修をはじめ、鹿児島県小学校社会科研究会夏季研修会等で報告した。 (2) 教育社会学が明らかにしてきた学力についての研究成果を基に学校現場での学力向上に向けた実践的提案についての研究を進め、沖縄市教育委員会での学習会や宜野湾市立長田小学校での学習会で報告した。 (3) 学習指導要領と教育実践における生活科の25年を概観して、その変化と課題についての研究を進め、教職科目「生活科教育研究」での実践と含めて、教育実践総合センターの紀要に応募した。 (4) 教育課程研究として「『自由研究』の廃止過程の検証と木宮乾峰の『教育課程』概念」をまとめ、学部研究紀要に応募した。
社会 貢献	0.10	(1) 教育学部附属教育実践総合センターの「地域連携事業部門」において、中城南小学校での研究に協力し、生活科の実践力向上に努める。 (2) 教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザー事業部門」において、該当学校に赴いて協力して研究を深める。		0.05	(1) 教育学部附属教育実践総合センターの「地域連携事業部門」において、中城南小学校での研究に協力し、生活科の授業構想から研究授業までに関わった。 (2) 教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザー事業部門」において、浦添中学校に赴いて研究授業、夏季研修会に参加して、同校が掲げる研究テーマ「豊かな心と確かな学力をもつ生徒の育成～主体的に考え行動できる生徒の育成を通して思考力・判断力・表現力を高める～」に基づいて指導助言を行った。
管理 運営	0.10	(1)教職大学院創設に向けたワーキンググループとして、平成28年4月開設に向けた運営推進計画づくりに努力する。 (2) 学内委員の「共同研究推進委員」として関係諸機関と連携をとりながら共同事業に参加して、必要事項を「教育実践学教室」へフィードバックして、業務を遂行する。		0.30	(1) 教職大学院創設に向けたワーキンググループとして、平成28年4月開設に向けた運営推進計画づくりに努力した。また実習の担当者として教職大学院に必要な制度設計、実習校との連絡・調整に努めた。 (2) 内委員の「共同研究推進委員」としては成果となるようなことは行っていない。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		花木 宏直	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 社会科教育専	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	現代沖縄の空間に生起する諸問題を、内からのまなざしだけでなく、外からのまなざしを含め、多面的に捉えられる学生の育成を目指す。そのために、沖縄と地域間関係をもつ海外を含む各地で実習を行い、世界に散在する社会問題を考察できる能力を習得させる。			0.30	主に、社会科教育専修の地理学実習や、沖縄島嶼教育コースの島嶼社会巡検を活用し、台湾(沖縄県産品の輸出とその課題)や北陸地方(リゾート観光の衰退とアート観光やコンテンツツーリズムなど最先端の観光業のあり方)、下北半島(へき地の地域運営と公共事業、とくに米軍基地や原発の誘致)、東京・大阪(貧困やマイノリティ問題)を訪問し、沖縄との地域間関係や、沖縄と同様な課題をもつ地域での取り組みについて実見し、議論を行う実習形式の授業を積極的に展開した。学生からも、沖縄県外へ視角を広げ沖縄を相対化することができたということで、大いに好評であった。		
研究	0.30	本年度は、これまでの研究成果をまとめ、博士論文の提出と刊行を目指すことに集中する。資金としては、平成27年度琉球大学若手研究と、平成28年度科研費若手研究Bの取得を目指す。			0.30	当初の目標から変化し、海外研究によりよい新たな方向性をみいだせた。平成27年度琉球大学中期計画達成プロジェクト「文化共有集団による越境的ネットワークの国際比較研究—ウチナーンチュとバスク人をめぐって—」のプロジェクトメンバーとなり、沖縄からの移民送出のあり方をバスク人と比較し世界的視角からとらえ直す研究を重点的に進めた。今年度の成果は、平成28年4月に雑誌「移民研究」に掲載される予定である。		
社会 貢献	0.10	これまでの研究を活用し、執筆依頼を受けた『離島研究V』と『図説 日本の島』、『日本生活史辞典』の刊行を通じて、一般社会に成果を還元する。			0.10	『離島研究V』は平成26年11月にすでに刊行されていたが、平成28年1月にはインターネットを介した電子版も刊行され、より入手しやすくなった。『図説 日本の島』は平成27年12月に校了し、平成28年度内に出版の予定である。『日本生活史辞典』もすでに校了し、平成28年春季に出版の予定である。また、平成27年12月には、沖縄国際大学南島文化研究所第194回シマ研究会の講師として、近代沖縄からの移民送出について新たな研究成果を市民へ講演した。		
管理 運営	0.10	講座の運営と入試委員会、投票管理委員会の業務を滞りなく行う。			0.10	講座や委員会の業務に積極的に関与した。とくに、入試委員会では、社会科教育専修の入試方法の改善や簡素化に取り組み、平成27年度より後期入試廃止を実現した。また、投票管理委員会では、委員長として、各種選挙の運営を行った。		
進路 指導	0.20	指導学生となっている4年次5名を、希望の職種に必ず就職させるよう支援する。			0.20	後期から1人が復学し、6人の4年次を指導した。教員志望の学生3人のうち、1人は広島県の小学校の本採用、1人は本学部特別支援教育専修の専攻科へ進学予定、1人は沖縄県の臨探を予定となった。一般職を希望する3人のうち、1人は進路を検討中であるが、1人は平成27年10月より沖縄県の新聞社に契約社員ではあるが卒業を俟たず採用され、1人は平成28年4月より東京都にある日本最大手の海運・物流会社に就職を果たし、おおよそ全員が希望の進路に進むことができた。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		神園 幸郎	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 特別支援教育専 職 名 教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ○学生を支援員として教育現場に派遣して教育実践を体験させ、実践力の養成に努める。 ○発達障害児の余暇活動の促進と学習支援を目的とする「土曜教室」を拡充し、学生の臨床経験の充実と実践能力の向上を図る。 ○大学院生をティーチングアシスタントとして学部学生の授業に参加させ、教育内容や教授法の開発に係る資質を育てる。 ○卒業研究の構想発表会を公開し、FDとして実施する。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ○学生を支援員として教育現場に派遣して教育実践を体験させ、実践力の養成に努めた。 ○発達障害児の余暇活動の促進と学習支援を目的とする「土曜教室」を拡充し、学生の臨床経験の充実と実践能力の向上を図った。 ○大学院生をティーチングアシスタントとして学部学生の授業に参加させ、教育内容や教授法の開発に係る経験の場を提供した。 ○卒業研究の構想発表会を公開し、FDとして実施した。
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ○日本特殊教育学会において研究発表を行う。 ○日本自閉症スペクトラム学会において研究発表を行う。 ○日本自閉症スペクトラム学会の評議員として職責を果たす。 ○「教育学部紀要」に論文を投稿する。 ○「発達支援教育実践センター紀要」に論文を投稿する。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ○日本自閉症スペクトラム学会の評議員として職責を果たした。 ○「教育学部紀要」に論文を掲載した。 ○「発達支援教育実践センター紀要」に論文を投稿した。
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ○浦添市デイサービス事業「たんぼぼ園」における発達相談を担当する。 ○南城市適正就学指導委員会において委員として就学判定を行う。 ○西原町適正就学指導委員会において委員として就学判定を行う。 ○西原町立小学校4校で発達障害児支援の巡回相談を行う。 ○沖縄県就学指導委員会の委員として就学判定を行う。 ○浦添市社会福祉協議会「ひまわり」入所審査委員長の職責を果たす。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ○浦添市デイサービス事業「たんぼぼ園」における発達相談を担当した。 ○南城市適正就学指導委員会において委員として就学判定を行った。 ○西原町適正就学指導委員会において委員として就学判定を行った。 ○西原町立小学校4校で発達障害児支援の巡回相談を行った。 ○沖縄県就学指導委員会の委員として就学判定を行った。 ○浦添市社会福祉協議会「ひまわり」入所審査委員長の職責を果たした。
管理 運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○委員会委員として職責を果たす。 ○「土曜教室」の実施に伴う施設管理、参加児童の安全管理に努める。 ○特別支援教育学生支援員を募集し県教育委員会へ学生を斡旋する。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○「土曜教室」の実施に伴う施設管理、参加児童の安全管理に努めた。 ○特別支援教育学生支援員を募集し県教育委員会へ学生を斡旋した。
進路 指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○1年次指導教員として学生の進路相談と就職情報の提供等に努める。 ○4年次の学生の進路相談や就職情報の提供に努める。 ○特別支援教育特別専攻科生7名の進路相談および就職情報の提供等に努める。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○4年次の学生の進路相談や就職情報の提供に努めた。 ○特別支援教育特別専攻科生7名の進路相談および就職情報の提供等に努めた。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田中 敦士		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 特別支援教育専修		職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	①講義では、特別支援教育の学校現場で必要となる実践的スキルも体得できるよう、現職教員が使用するマニュアルなども含めて教授するほか、できるだけ模擬授業も取り入れる。また採用試験に向け毎週小テストを実施して意識啓発を図る。②卒業研究20名および修士論文4名とゼミ人数が多いが、学生の学びたいテーマを優先させ、必要に応じて実践現場の見学や学外専門家を紹介する。③国内外の学会で院生にも発表の機会を与え、投稿論文についても積極的な支援を行う。			0.45	①「知的障害者の指導法Ⅰ」では模擬授業も含めて実践的な内容を教授した。「知的障害者教育課程論」では採用試験対策も重視して過去問をTAと一緒に検討してミニテストを毎週行った。このような取り組みの成果として、2年前に受講した4年次も現役で4名採用試験を突破し手応えがあった。②ゼミについては今年度から韓ゼミと合同で行うこととし、刺激的な研究環境を構築した。卒業研究については新奇性のある研究が多く、学生がいくつもの論文投稿を検討中である。大学院生は3名を指導しているが、全員が国際学会等で発表したほか論文も投稿し掲載された。		
研究	0.30	①科研費(挑戦的萌芽研究;代表:H26-27)「八重山諸島における小中学校の近未来～教育人口学的アプローチ」が最終年度となるので、精力的に離島の学校現場を訪問し調査を進め取りまとめを行う。②科研費(基盤研究B;分担:H26-28)「発達障害児における不器用の解明と指導法の開発」を進め、国際学会でシンポを中心に企画する。③知的障害者、発達障害者の就業支援やキャリア教育等に関する研究をすすめ、成果を学校現場に還元するほか、国内外の学会誌等への論文掲載と国際学会発表で合計5本(共著含む)を目標とする。			0.20	①科研費(挑戦的萌芽研究;代表)では、竹富町および与那国町の教育委員会と小中学校を精力的に訪問し、八重山の教育人口に関する有用な情報を得られた。中間成果について国際学会で基調講演を行い、少子化対策を広く訴えた。②科研費(基盤研究B;分担)では、1年半の成果をまとめ、国際学会でシンポジウムを開いた。③2015年は共著を含み10本の論文が掲載された。特別支援教育支援員についても県教育委員会や宜野湾市教育委員会、西原町教育委員会と連携して、次期科研費研究課題(基盤研究C)として3カ年計画で申請した。		
社会 貢献	0.20	①沖縄県立大平特別支援学校、美咲特別支援学校はなさき分校、および沖縄盲学校の学校評議員として、特別支援教育と学校運営に関する協力を行う。②沖縄障害者職業センターや関係支援機関などと連携して共同研究を進め、障害者雇用に関する研究成果を提供し助言を行う。③県外から訪沖する知的障害のある修学旅行生への公開講座を開催し、大学で学ぶ機会を提供する。④国際学会を主催者としてかわかり、最新の情報を学べる機会を提供する。⑤教員、支援者や事業主らからの相談に積極的に対応する。⑥発達障害者の親の会と連携して研究成果を実践現場に還元する。			0.20	①3校での学校評議員として頻りに各学校を訪問し、学校運営や授業成果評価に関する助言を行った。はなさき分校には毎週3名程度の学生を派遣し、授業支援と成果評価を行い、県指定グループ研においても共同で取りまとめや成果報告を行った。②沖縄障害者職業センターなどと連携し共同研究を実施した。③県外から訪沖する知的障害のある修学旅行生ら約90名を対象に公開講座を開催した。④本学において、1st Asian Research Conference of Human Services Innovationを開催した。⑤沖縄県教育委員会の有識者会議に招かれ、高等学校における特別支援教育支援の配置について専門的助言を行った。沖縄県教育委員会が主催する認定講習の講師を14年連続で務めた。		
管理 運営	0.10	①学部改組や大学院改革に係り、特別支援教育の人材養成の在り方について他大学の情報を収集し、教育委員会や学校現場と連携してニーズ調査を進める。②教育委員会、入試委員会などの委員会活動に努める。③特別支援学校教育実習等での学生指導を担当する。④推薦入試の導入など入試改革に中心に取り組む。⑤日本教育大学協会全国特別支援教育部門との窓口として調整する。			0.10	①教大協特別支援教育部門の先生方と頻りに情報交換し、今後の特別支援教育人材養成の在り方について検討し、免許法を遵守した学部、専攻科、大学院の再編案を提示した。②教育委員会、入試委員会などの委員会を担った。教育委員会では副委員長として履修カルテの見直しも行った。③実習や学生支援員の派遣事業において、頻りに学校と連絡をとり、定期的に協議会を開催した。④今年から後期日程に代わり推薦入試Ⅱを導入し、面接を開始した。入試改革を学科の責任者として実施した。		
進路 指導	0.10	①県内の教員採用試験受験予定者には2次面接対策などを個別に設定する。②県外の教員採用試験受験予定者には、昨年度までの合格者の小論文などの各種資料を提供し助言を行うとともに、該当するOBがいれば紹介する。③海外の日本人学校受験希望者には、卒業生で海外勤務している学生からの情報を提供する。④大学院修士進学希望者に対しては、大学院の情報や研究計画への助言を丁寧に提供する。⑤希望学生に対しては1次試験に向けて教職教養等に関する模擬試験を実施する。			0.05	県内の教員採用試験受験予定者には2次面接対策などを個別に設定し、丁寧にカウンセリングを行った。採用試験での面接経験者ら有識者を紹介し指導をお願いした。現役合格したOBも学生に紹介し、勉強法などを直接聞けるようにした。これらの結果、沖縄県だけで4名の現役合格者を輩出した。海外の日本人学校受験希望者(現3年次)には、卒業生で海外勤務している学生からの情報を提供し、直接話を聞けるように取り持った。大学院修士進学希望者に対しては、大学院の情報や研究計画への助言を丁寧にを行った。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		松本 修一		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 数学教育専修	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	共通教育と専門教育に関する講義の他に、学部生に対する自主的なゼミ、及び大学院生の指導を通して責務を果たす		0.30	共通及び学部の講義においては、学生との議論を通して意欲を掘り起こし、自律的に学ぶ姿勢を持たせることを目指した。3割程度の学生にある程度の効果があったと考える。ゼミを通じた教育(7人)では、6人に対して相当満足すべき効果を上げた。ただ、院生の内の一人だけが途中で脱落し、論文を書かせることができなかった。与えた課題が哲学的な考察を必要とするものであり、彼の中で詰め切れなかったようである。人間性の分析において私に甘さがあったことを認めざるを得ない。指導教官をしている4年生の8名中5名が教員採用試験に合格したことは、かなり評価している		
研究	0.30	中性子寿命に関する実験結果と理論計算の不一致に関する研究		0.30	中等及び大学初年度の数学教育における、教科内容の改良について考察した。知識を外部から与える点に重きを置くのではなく、生徒や学生自身の知識や経験を深めひろげることを目標とするためには、何をどう提供すべきかを考えた。一つの試案としての、「月を大きなりんごに変えた数学」という副題の、微分積分学のテキストを出版することができた。今後もこの考察を追求したい		
社会 貢献	0.30	誰でもが自由に Web 上で利用できる算数及び数学の自学自習支援システムを充実させる		0.10	提供すべき教科内容と教授方法の考察に時間を取られ、自学自習支援システムを具体的に構築し公開することには至らなかった。来年度以降に取り組みたい		
管理 運営	0.10	教育実習委員及び数学教室主任の責務を果たす		0.30	教育実習委員の責務は重大な過失なく果たした。数学教室主任としても、2件の人事案件等、一応の成果を残すことができた。ただ、横浜市教育委員会へ「教員採用試験大学推薦」で推薦した学生が合格を辞退した問題については、各方面に多大な迷惑をかけた。責任を痛感している		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		石川 雅雄	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 数学教育専修	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・学生支援	0.40	「幾何学序論Ⅰ・Ⅱ」「幾何学Ⅰ」「線形代数学Ⅰ・Ⅱ」等の共通教育・学部・大学院科目等の科目を適切に提供する。授業評価アンケート等をもとに学生の要望を取り入れ、講義の組み立てを見直す。特に講義毎の演習問題を行うことによって、学生の理解を確かなものにする共に評価の適正化に努める。微積分や数学オリンピックの問題を取り入れ、興味を湧かせると共に計算力を強化して、数学への専門的興味や教員採用試験へ合格する力をつけさせることに腐心する。また、4年生のゼミは「はじめての整数論」、修士1年のゼミは「線形代数と組み合わせ論」の本を読み、適切な指導及び卒業発表の助言を行う。		0.45	「幾何学序論Ⅰ・Ⅱ」「幾何学Ⅰ」「線形代数学Ⅰ・Ⅱ」「幾何学特論」「同演習」の共通教育・学部・大学院科目等の科目を提供した。講義毎の演習採点がいへんであり、TAの手伝いがあってもこなしきれない。しかし、学生の理解は深まり、よく勉強してくれた。微分幾何学やベクトル解析を教えるために、微積分分の高等数学を強化すると同時に、教員採用試験に出やすい領域に題材を取って、興味を湧かせるように努めた。4年生のゼミは「はじめての整数論」で非常にわかりやすい説明をしてくれた。、修士1年のゼミは「線形代数と組み合わせ論」という本を頑張って読み、良く理解してくれた。その他にボランティアで希望者を対象に沖縄県教員採用試験(数学専門)の対策セミナーを行い、過去問の分類と模範解答の作成を行った。		
研究	0.40	研究代表者である基盤研究C『交代符号行列・平面分割の数の上げ組合せ論と行列式・パフィアンの研究』及び分担者である基盤研究B『平面分割、交代符号行列の代数的組合せ論と関連する表現論、数理論理学の研究』に沿って代数的組合せ論の研究を行う。また、新たに加わったCRESTの『次世代暗号に向けたセキュリティ危殆化回避数理モデリング』に沿って暗号の数理的研究にも取り組む。5～7月には大韓民国の2015 NIMS Thematic Project on Combinatoricsに招聘されており、それらで得られた研究成果は国際雑誌や国際学会で積極的に公表する。		0.45	研究代表者である基盤研究C『交代符号行列・平面分割の数の上げ組合せ論と行列式・パフィアンの研究』及び分担者である基盤研究B『平面分割、交代符号行列の代数的組合せ論と関連する表現論、数理論理学の研究』に沿って代数的組合せ論の研究を行った。また、CRESTの『次世代暗号に向けたセキュリティ危殆化回避数理モデリング』の研究会に参加した。5～7月には大韓民国の2015 NIMS Thematic Project on Combinatoricsに3週間参加し2回の研究発表を行った。このプロジェクトでは、Richard StanleyやJiang Zengと情報交換をし、8月にはMITのRichard Stanleyを訪ね、それから9月にはリヨン大学のJiang Zengを訪ねて研究活動を行った。		
社会貢献	0.05	学外の国際研究集会への参加や海外研究者の招聘を行う。CRESTの研究成果等の社会還元や啓蒙活動に努める。		0.00	年度の後半に海外および国内の研究者を招聘する予定であったが、忙しくなったために招聘できなくなった。		
管理運営	0.15	専修内の事務分担や学部内委員会委員等(入試委員)の職務を行う。数学教育専修の欠員等のために、今年度の専修人事等が予想され、適切で優秀な人材を取れるように協力する。		0.10	入試委員会は学部改組関係で前半に開かれ、2年前予告の件についての話があったが、その後改組案が固まるのに時間を要したために余り開かれていない。加藤先生の後任の教授・准教授・講師の公募において選考委員を務め、候補者の業績の点数化及び全ての業績の収集・閲覧の準備を担当した。		
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		小田切 忠人	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教育実践学専修
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	研究科では数学教育専攻の、学部では教育実践学専修および数学教育専修の講義やゼミを分担する。教育実践学2年の指導教員の一人として学生指導に当たる。また、学部の認定試験問題の作成や解説に協力する。		0.30	予定通り、講義等を分担した。ただし、卒論生三名のうち、一名については、次年度卒業の予定となった。
研究	0.15	科研費研究(「基礎数学学習にスペシャル・ニーズのある子への教育介入データベースの活用」を進め、最終年度としてまとめる。また、その研究成果を研究会や研究雑誌で報告する。		0.10	科研費研究最終年度ということで、予定通り、データベース・システムを構築した。具体的には、システムの改訂を行い、かつ、windows10やoffice2016上でも問題なく活用できることを確認した。今後、データのアップデート作業を継続する。研究成果の発表は市販教育雑誌に連載の形で行ったが(「算数にスペシャル・ニーズのある子どもたち」『数学教室』2015.4～)、途中で出版社の倒産で中止された。しかし、次年度から発行されることになったので、研究成果の発表をまた継続する。また、ベトナムのタイグエン教育大学で開かれた国際会議で(2015.8.20,21)、Creating Lesson-Designs for the "Diversity Years"-Do Children Learn Mathematics in a Systematic Manner?-と題して発表した。
社会 貢献	0.05	共同研究者として教育現場の授業づくりを支援する。		0.05	アドバイザースタッフ派遣事業で大宜味中学校、塩屋小学校、八島小学校で、研修(模擬授業を含む)の講師を務めた。数学教育協議会の全国小学校集会で、特別支援学級の分数の公開研究授業の講師を務めた。毎月、現場教師との学習会を開いた。
管理 運営	0.50	学部長として大学と学部の業務を遂行する。特に、ミッションの再定義に基づき学部・研究科の改組計画を進める。		0.55	学部運営会議のメンバーの協力を得て、学部の運営に当たった。学部の改組については、学部教授会・大学当局の理解を得て文科省相談を行っているところである。作業工程は遅れているが、年度内に、その相談作業を終了できる見込みである。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		日熊 隆則		所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 数学教育専修		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・授業: 数理の構造において、アクティブラーニングの一環としてグループ学習を取り入れる。また、数理の構造ではiPadやパソコン、DVDを利用した、ビジュアルな授業をやる。 ・プロジェクトSEED: 「すべての子どもをナマイキに」という目的のため、学生や社会人を巻き込んで、教育について考え実践するグループワークを月に一回必ずやる。 				0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・数理の構造の授業では、マルチメディアを利用した講義は学生にとっても好評であったが、教室の椅子が固定のため、作ったグループの活動があまり活発にならなかった。 ・SEEDは実際に月に一回、一年間行った。各人のシェアがお互いの共感をよび、参加者には新鮮な体験だったようである。 				
研究	0.30	教育のゲーム化について、実際にどのようにするとよいかの具体的な方法を考え計画を立てる。				0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・付属小での実験をもとに、「教育のゲーム化について」を紀要に投稿 ・数学のゲーム化の具体的なシナリオができたので、来年度に土曜塾で試す予定である。 				
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・附属小でのパソコンクラブの授業 ・美東中学での土曜塾で、中学生に学習支援 				0.20	パソコンクラブの授業(附属小)、土曜塾での学習支援(美東中)を実施した。学生も積極的に参加してくれて、とても良い経験になったようだ。				
管理 運営	0.10	学生生活委員、釧路校交換留学制度WG				0.10	学生生活委員、釧路校交換留学制度WGとしての職務を遂行した。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		山城 康一	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 数学教育専修
職 名				准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	専門科目:代数学 共通教育科目:統計学 院:特論の興味深い授業 学部ゼミ4年生1人、院生1人のそれぞれの分野への意欲の持続 webclassの利用		0.30	代数学序論Ⅱ(後期)で、反転授業を実施 代数学序論(専門)と統計学(共通)でwebclassを活用し、授業ノートの配布、授業内容に関する質問への回答、アンケートを実施 コックさん学校の活動でもwebclassを利用し、過去のデータの活用を補助、データの蓄積 普天間小学校の校長をお招きして、学生向けの講義を主催
研究	0.40	部分環の列に関する研究の継続 平田分離拡大環の諸結果の強分離拡大環への拡張 ある種の圏論的システムの構築		0.10	Quasai-Frobenius Ring についてまとめ、平田Separable Extension、Strongle Separable Extensionとの関連を整理する 纏められず、未だ論文には出来ず
社会 貢献	0.20	九州数学教育研究大会における指導助言 沖縄県数学教育会大学部会事務局 九州数学教育研究沖縄大会に対する取り組み		0.30	沖縄県数学教育会大学部会事務局 九州数学教育沖縄大会準備・実行委員、高等学校部会において指導助言 MSP普天間小学校担当、普天間小学校校内研の指導助言×2 沢岬小学校校内研の指導助言
管理 運営	0.20	コックさん学校		0.30	周辺の児童を集め、教育学部の学生を先生として学校カリキュラムにしばらくられない算数と国語の授業を行う「コックさん学校」を開校 活動を通して学ぶ(アクティブ・ラーニング)授業を、学生には計画・実施を支援、児童にはその提供
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	湯澤 秀文		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 数学教育専修	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	各講義に対する学生の質問や感想を随時取り入れ、これを授業の改善等を通じてフィードバックして行く。近年の研究成果や情報も適宜取り入れ、講義の質の向上に努める。 また、ゼミや指導年次の学生に対し、進路相談、修学相談等を随時行う。	0.35	ほぼ毎回の講義において、学生からの質問や感想を、主に記述を通して聞くことができ、結果をそれ以降の講義の改善に役立てることができた。また、近年の研究の動向等も適宜活用した。その結果、これらに関する学生の感想記述は、概ね講義の趣旨に沿うものが多かった。 また、ゼミや指導年次の学生に対し、進路相談、修学相談等を随時行った。		
研究	0.35	研究テーマに関する資料・情報の収集、教材開発、授業研究、授業実践、学会参加等を通じて、算数・数学科教育及び教師教育に関する研究と実践を進める。	0.35	研究テーマに関する資料や情報の収集、学会への参加等を通して、実践や考察を進めることができた。		
社会 貢献	0.20	学会や附属学校、公立学校の研究大会や研修、授業研究会等における指導・助言等の要請に可能な限り応え、学校や大会の運営に協力する。	0.20	附属学校における研究大会や校内研修、教育実習等での指導・助言のほか、公立学校や各種研究団体等からの研究会・研修会等についても可能な限り依頼を受け入れ、指導・助言等を行った。		
管理 運営	0.10	所属委員会の活動に取り組む。	0.10	所属委員会より依頼された業務に関しては責務を果たすことができた。		
	0.00		0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	韓 昌完		所属	教育学部 学校教育教員養成課程 特別支援教育専修	
職名	准教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ① 病弱児の心理・生理・病理および障害者発達支援総論は適切なテキストが市販されていないため、テキストを作成し独自の学習資料を提供する ② 特別支援教育概説に関しても独自の教材を作成し、教授する。 ③ 修士課程の指導において、学術雑誌および紀要に研究論文を投稿掲載するように指導を行う。 ④ 卒業論文の指導では、紀要に論文投稿できるように指導を行う。 ⑤ 学部指導担当学生を修士課程に進学させる。 ⑥ 教員採用試験に対する取り組みを積極的に実施する。 	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ① 病弱児の心理・生理・病理、障害者発達支援総論に関するテキストを作成し独自の学習資料を提供した。 ② 特別支援教育概説の独自の教材を作成し、教授した。 ③ 修士課程の研究指導の結果、修士課程の学生2名中1名は国際学会での論文発表2件、1名は国際学会での論文発表1回を行った。 ④ 卒業論文指導の結果、教育学部紀要に2本の論文投稿を行った。 ⑤ 学部指導担当学生を修士課程に1名進学させた。 ⑥ 教員採用試験に対する取り組みを積極的に行い、指導学年において4人の合格者を出すことができた(中学校国語1名、特別支援教育1名、小学校1名、寄宿舎1名)。 ⑦ 学部学生の論文指導の結果、国内外の学会における合計3本の論文発表ができた。 ⑧ 韓国ソウルで開催された国際学会に修士課程の学生1名、学部の学生3名を引率し参加して計3本の論文発表を行った。 ⑨ 平成27年度は新入生と4年生の2学年合計24名の指導を行い、新入生12名の中、9名を附属小学校の特別支援の必要とする子供たちの学習支援に行くように指導し、支援内容に対する指導、ケース会議などを行った。 →年度目標の150%以上の達成。	
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際ジャーナルに論文2本以上掲載。 ② 国内ジャーナル(紀要を含む)に論文1本以上掲載。 ③ 外部資金(科学研究費補助金等)の獲得にChallengeする。 ④ 国際学会に1本、国内学会に1本研究発表を行う。 	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際ジャーナルに論文4本を掲載した(impact factor=1.351)。 ② 国内ジャーナル(紀要を含む)に論文4本を掲載した。 ③ 外部資金(科学研究費補助金等)の獲得にChallengeし、基盤研究Cを獲得した(3年間4550,000円)。 ④ 国際学会に3本、国内学会に2本の研究発表を行った。 →年度目標の200%程度の達成。	
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ① 海外からの教育研修を積極的に受け入れ、講演を開催する。 ② 県からの研修講師等をできる限り引き受ける。 ③ 附属小学校に対する支援を積極的に行う(気になる子供に関する教育支援など) ④ 県立特別支援学校に対する支援を積極的に行う。 	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ① 韓国からの団体研修1回(講演を含む)、韓国のプサンにある国立大学であるプキョン大学との共同シンポジウムを開催し(12月16日)琉大代表として発表を行った。 ② 附属小学校でのアドバイザー、カウンセラーとして活動し、附属小学校の入試、毎月のケース会議に積極的に参加した。 ③ 県立鏡が丘特別支援学校との研究協定を結び、校内研修、共同研究を行いその結果、計2本の論文発表を行った。 ④ 県教育委員会が開催する免許法認定講習の講師として計4日間の講義を行った(宮古、八重山地区) ⑤ 平成27年度八重山地区幼稚園教育課程研究協議会に講師として講演を行った。 ⑥ 沖縄県全域の特別支援教育Coordinator研修の講師を務めた(3か月に掛けて計6回) ⑦ 沖縄県教育事務所指導主事研修の講師を務めた。 ⑧ 国際学会Asian Research Conference of Human Services Innovation 誘致、実施した。 →年度目標の200%程度の達成。	
管理運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ① 専修主任を担当する。 ② 学生生活委員会の委員を担当する。 ③ 発達支援教育実践センター運営委員会の委員を担当する。 ④ 教育学部附属小学校の講師(カウンセラー)を務める。 	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ① 専修主任を担当した。 ② 学生生活委員会の委員を担当し、活動した。 ③ 発達支援教育実践センター運営委員会の委員を担当した。 ④ 教育学部附属小学校の講師(カウンセラー)を務めた。 ⑤ 代議員会、教務委員会の委員を務めた。 ⑥ 全学の障がい学生支援室の運営委員を担当した。 →年度目標の130%程度の達成。	
	0.00		0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	永津 禎三	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 美術教育専修	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	昨年度に引き続き授業改善に取り組み、授業内容の変更による教育効果を検証する。特に小学校教科科目「小専美術A」については、昨年の後学期から、「彫り進みリレー版画」を中心とした授業に大幅に変更し、これまでの講義中心の授業から、制作や演習を主とするようにした。学生は意欲的に学ぶようになったものの、基本的な知識の習得や教材としての考察はまだ弱いため、バランスの取れた授業内容となるよう、更に改善を図る。	0.35	「小専美術A」の授業の改善が進んだ。「L字型版木の色彩版画」「彫り進み版画」「彫り進みリレー版画」の3種類の版画制作とリレー版画の制作レポートを作成させ、内間安理作品を紹介し、紀要論文「版画指導の新しい可能性について」を読み合わせ、「表現主義」と「創作版画」のふたつのキーワードについてグループ学習を行わせた。更に小学校学習指導要領「図画工作」の記載内容を踏まえさせることで、学期末試験のレポートの質が格段に向上した。今後も学生がより楽しく興味を持ち、深い考察につながるよう、授業内容を更に改善したい。	
研究	0.50	「彫り進みリレー版画」については、上記授業での実践だけでなく、他の機会も積極的に利用し、出来るだけ多くの実践例と制作レポートを集め、考察を深める。 美術理論・美術史分野の課程認定に対応することも含め、これまでの講義録や授業実践を踏まえ、整理・加筆して、美術理論・美術史分野の論文を学部紀要等に発表する。	0.50	「彫り進みリレー版画」については、今年度、認定講習を担当したので、ここでも多くの実践例と制作レポートを集め、考察を深めることが出来た。 美術理論・美術史分野の論文については、教育学部紀要第88集に「デッサンから考える、デッサンを考えるー美術理論・美術史基礎演習Vol.1ー」を、教育実践総合センター紀要第23号に「ルネサンスとカメラー美術理論・美術史基礎演習Vol.2ー」を発表した。	
社会 貢献	0.10	要請があれば、Advisory Staff 派遣事業等に協力する。	0.05	要請を受け、9月9日に豊見城市立長嶺中学校のMSP研究授業「対話による意味生成的な美術鑑賞」について研究授業と研究会に参加した。	
管理 運営	0.10	教室主任および専修主任としての職務を遂行する。	0.10	教室主任および専修主任としての職務を遂行した。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		上村 豊	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 教育実践学専修	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.50	特に、小学校の教科指導に関わる活動について、必ずしも専門的な興味をもっていない学生に対して、広く全人教育の観点から、表現教育の意義と、その基礎となる学生個々の表現力・創造性への認識・意識を高める。		0.40	「図工科教育研究」「総合表現」「子ども造形基礎」などの授業を通して、出来るだけ学生にとって身近な事象や課題を採り上げ、表現・創造の世界への学生自身の主体的な関わりを育成できるよう、努力した。ただ、特に教育環境(教室, 教材, 学外活動の機会創出)の点において、不足が残る。さらなる改善を期したい。	
研究	0.30	2010年度から取り組んできた「海を活かした教育に関する実践研究」の最終年に当たるため、これまでの成果をまとめ課題を検証するために、研究教育フォーラムの開催, 成果報告冊子の編集・刊行を行う。		0.40	「総合表現」のゲスト講師で左記事業の共同研究者である富田俊明氏(北海道教育大)を始め, 同僚教員や学外の研究協力者たちの協力を得て, 目標であるフォーラム開催, 冊子の刊行を実施することが出来た。今後, 本学部における表現教育の位置づけ, その意義を考えていく際に, 一定の基礎となる成果を上げられたと自己評価している。	
社会 貢献	0.10	大学教員の立場から, 県内の表現現場(アートシーン), 各種の表現教育の現場との関わりを深め, また学内での研究教育活動との連携を活発化させる。		0.10	主に, 琉球新報「美術月評」における批評活動(取材・執筆)を通して, 県内の表現現場・表現教育の現場との関わりが深まった。また, 後期授業「現代社会の諸問題と芸術」(T.スプリ氏, 亀井洋一郎氏との共同担当)において, 「美術館」を採り上げ, 学生と共に広く社会における芸術文化活動の多様なあり方, 役割, 意義について考察し, 提言を行った。	
管理 運営	0.10	教育実践学専修および美術教育専修の入学試験, おもに実技検査の企画・運営。 美術教育専修が開設する「マルチメディアアートスタディールーム(マルチメディア室)」の運営。		0.10	実技検査の企画・運営を通して, 表現教育の分野で育成すべき人材像, その育成方法について, スタッフ間の共通認識を高めることができた。 マルチメディア室の運営については, 学生たちの主体的な運営を促すことで, 自らの教育研究環境を, 自ら創出・改善させていく力を発展させることができた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	スプリ ティトウス		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 美術教育専修	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教育科目「美術の世界」の授業改善を行う ・「デザイン基礎」、「デザイン // /// /演習」、「図法および製図」、「映像メディア表現A」、「デザイン特論 」という授業改善。 ・「生活科教育概論01組」の美術担当として受講生に教育現場での感覚の意味と意義を明確化する。 ・4年次指導教員として、年次別懇談会等において進路指導を行う。 ・認定試験問題作成と実施にに参画する。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教育科目「美術の世界」の授業を改善し、受講生のより積極的な関わりが実施できた。 ・前後期ともに、登録者のいない授業を除きに、予定通り授業を実施し、前年より受講生の積極的な関わりが実施できた。 ・「生活科教育概論01組」の美術担当を参画し、感覚について受講生の理解度が深まることを確認できた。 ・4年次指導教員として、学生が就職活動(特に教員採用試験)に積極的に取り組むよう、情報提供等を行った。 ・認定試験問題のデザイン分野の作成を担当した。 	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・「Creative Learning Environment」とい環境と教育をテーマにした研究 ・都市再生と住環境についての研究 ・オルタナティブ教育についての研究 ・美術教育の中でマルチメディアやコンピューターによるの表現の可能性の実践研究。 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・4月東京都で行った「東京トランジションズ」という市民による都市環境を改善する国際フォーラムの参加と発表を行った。 ・4月から3月まで月2回程度「Creative Learning Environment」研究の実践的な研究活動を行った。 ・10月NPO法人向島学会が開催するイベントで発表を行った。 ・沖縄で行うオルタナティブ教育について調査し、資料をまとめた。 ・「マルチメディア・アート・スタディールーム」を拠点に、様々な表現活動を通して実践研究を行った。 	
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・おきなわオルタナティブスクールというNPO団体の支援やボランティア活動。 ・不登校児のサポート含むオルタナティブ教育の実践活動。 ・子ども自然体験キャンプ、子どもの表現活動の支援などのボランティア活動。 ・沖縄オルタナティブ教育ネットワークで沖縄にあるオルタナティブ教育団体のネットワーク作り参画。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・おきなわオルタナティブスクールというNPO団体の支援やボランティア活動を行った。 ・不登校児のサポート含むオルタナティブ教育の実践活動を行った。 ・子ども自然体験キャンプ、子どもの表現活動の支援などのボランティア活動を行った。 ・沖縄オルタナティブ教育ネットワークで沖縄にあるオルタナティブ教育団体のネットワーク作り参画を行った。 	
管理 運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流委員会委員(全学委員会)としての業務を行う。 ・教育実習委員会の学部内委員会活動を担当する。 ・4年次指導教員としての業務を行う。 ・入試に関する業務を行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流委員会委員(全学委員会)としての業務を行った。 ・教育実習委員会などの委員会活動を担当した。 ・教育実習委員としての各施設や実習先との連絡、実習生の引率、介護等体験部会としての指導の運営、様々な体験のための学生指導といった業務を行った。 	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲間 伸恵	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 美術教育専修	職 名	講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	<p>昨年に引き続き、授業内容の改善に努める。 「小専美術B」「沖縄の染めと織り」「工芸科教育法」に関しては、今年度から新たに担当する科目であり、授業内容の構築をするとともに、学生の理解の助けになるような資料(文献・映像・現物)の収集に努めたい。</p>		0.40	<p>「織染Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、これまで以上に学生の自発性・創造性を促すことに重点をおいて授業改善を行なった。 「沖縄の染めと織り」「工芸科教育法」においては、沖縄の工芸に関する映像や、染織関係品(素材、裂、着物等)の現物に触れて体感させることで学生の意識を刺激し興味理解を促すことができた。今後は、今年度の反省を踏まえ、学生が興味関心を広げ、自分なりの考察を深められるように授業内容の改善を図りたい。</p>	
研究	0.40	<p>「紙漉きを通して自然と文化を学ぶ体験学習」の研究を進める。 昨年度から引き続き、宮古島市立福嶺小学校での「苧麻による卒業証書づくり」に継続して取り組みながら、その成果と課題の考察を深める。 紙漉き体験学習についてのこれまでの実践を論文にまとめる。</p>		0.40	<p>・宮古島市や大宜味村にて紙漉き体験学習を実践し研究を進めている。福嶺小での「苧麻紙卒業証書づくり」では、宮古苧麻績み保存会の協力体制が得られ、子どもたちと地域文化の担い手とのネットワークをつくるという目的のひとつに近づけた。来年度も、ものづくりを通して学校と地域がともに子どもたちの学びを支える仕組みづくりに努めたい。 ・教育実践総合センター紀要23号に「紙漉きを通して地域の自然と文化を学ぶ体験学習—高校生を対象とした宮古島市における実践報告—」を、また同紀要に琉大紙漉き研究会の一員として「沖縄県の小学校と地域の児童を対象とした紙漉き体験授業の実践」(5章を担当)を発表した。 ・琉大史学第17号に「地機からみる宮古の織物」を発表した。 ・「紙、やどる形展」(福岡県立美術館)に作品を発表した。</p>	
社会 貢献	0.10	<p>要請に応じて、工芸関係者の調査研究・事業等に協力する</p>		0.10	<p>宮古島市総合博物館協議会副会長を務めた。 要請を受け、沖縄県立工芸センター高度工芸技術者養成研修特別演習の講師を務めた。</p>	
管理 運営	0.10	<p>委員会委員(1)及び学部投票管理委員会委員としての職務を遂行する。</p>		0.10	<p>委員会委員(1)及び学部投票管理委員会委員としての職務を遂行した。</p>	
	0.00			0.00		
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		増澤 拓也	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 保健体育専修	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	積極的に演習を取り入れた授業計画の実現 学生が学習利用できる心理実験プログラムの開発 学生から授業改善のための意見の聴取			0.35	実験演習を取り入れた授業を実施した。 processingとWiiバランスボードを用いたCOPデータ算出プログラムを作成した。 授業終了後、授業に対する意見聴取の時間を個別に設けた。		
研究	0.35	研究雑誌に1編以上投稿する。 競争的研究資金を2件以上応募する。 学会(研究会)発表を2回以上おこなう。			0.30	研究雑誌に投稿・審査中である。 競争的研究資金に2件以上応募した。 インターネットを用いた他大学とのバランス勉強会を実施した。		
社会 貢献	0.10	運動学習研究会への参加。 バランス勉強会への参加。			0.15	運動学習研究会へ参加予定(3月開催)。 バランス勉強会の企画・運営をおこなった。		
管理 運営	0.10	保健体育専修主任業務。			0.20	保健体育専修主任業務に従事。		
	0.10				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	杉尾 幸司		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 理科教育専修		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	学部および大学院の担当科目の授業内容について検討し、改善を実施する。また、教免法の改訂にともなって実施が義務付けられた教職実践演習およびその前提科目である教職実践研究を実施し、外部機関とも連携して効果的な内容になるように努力する。		0.30	学部担当科目および大学院担当科目ともに、前年度の学生による評価結果等を参考に改善を行った。また、教職実践研究・演習を外部機関(沖縄こどもの国)と連携して実施し、学生の教育実践力向上に寄与する取り組みを行った。		
研究	0.35	新たな研究を進めるとともに、これまでの研究内容についてまとめ、学会等での発表や研究論文等の投稿に努める。また、科学研究費補助金等の外部資金の獲得を積極的に行う。		0.35	外部資金として、「科学研究費補助金(基盤研究C:研究代表)」を獲得し、研究を進めた。これまでの研究成果は、学会において発表するとともに、論文投稿を行い学部紀要に掲載された。		
社会 貢献	0.15	附属学校等での研究授業および授業討論会等に参加し、助言を行う。また、小中高の教育現場と連携した取り組み等の対外的な協力についても積極的に行う。		0.15	附属学校で行われた研究授業に参加して助言等を行った。また、沖縄県教育委員会より、スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員の委嘱を受け、球陽高校の運営に対し指導・助言を行った。		
管理 運営	0.15	理科教育専修の主任として、教育学部に関連した各管理運営に関する事項についての責任を果たすとともに、大学院改組等における取り組みにおいても、積極的に協力する。		0.15	理科教育専修の主任として、各管理運営に関する事項についての責任を果たした。また、新設される教職大学院の設置認可・課程認定および認可後の大学院入試等に関する各種業務に積極的に協力した。		
進路 指導	0.05	課題研究担当の学生を中心に、教員採用試験等に向けての積極的な指導・助言を行い、進路に関しての適切な支援体制を構築する。		0.05	研究所所属学生に対して、教員採用試験等に向けての積極的な指導・助言を行うなど、適切な進路指導等を実施した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		柄木 良友		所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 理科教育専修		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.60	担当講義を行う。1年次の指導教員として学生支援を行う。				0.60	担当している講義を行った。年次指導教員として指導を行った				
研究	0.30	物性研究所の嘱託研究員として共同研究を行う。				0.30	物性研究所の嘱託研究員として共同研究を行った。研究成果はJ. Phys. Soc. Jpn. 84, 084708 (2015)およびJ. Phys. Soc. Jpn 84 024710-1 (2015)で発表した。				
社会 貢献	0.00					0.00					
管理 運営	0.10	極低温センターの保安統括者代理としての職務を行う。				0.10	極低温センターの保安統括者代理としての職務を行った。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岩切 宏友	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 理科教育専修	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.44	<p>○物理学実験の講義を通して、基礎的な物理の実験手法の確立や、コンピュータの活用方法、論理的な文章の書き方などを指導する。</p> <p>○卒業研究の指導により、自発的研究能力や科学的思考能力の育成を行う。</p> <p>○教育学部における物理教育法を高度化し、その手法を確立して講義に生かす。</p>			0.44	<p>物理学に関する講義については十分な学習効果が得られた。また、理科教育に関する講義も本年度新たに実施し、一定の成果を上げた。なお講義の内容は本年度履修学生に応じて昨年度から10%程度変化させた。また3人の学部学生に対して卒業研究指導を行い、科学的思考力や文章作成、プレゼンテーション技術の育成に成果があった。</p>		
研究	0.38	<p>○国際科学技術協プロジェクトであるITER-BA(国際熱核融合実験計画を補完・支援する先進的核融合研究開発事業)からの助成金を受け、未来エネルギーである核融合炉建設に関する基礎研究を進展させ、学会および学術論文として発表する。</p> <p>○トランスサイエンス問題とエネルギー環境教育に関する研究を進展させる。</p> <p>○量子ビーム照射効果についての基礎研究を進展させる。</p>			0.45	<p>ITER-BAについては3つの官学連携プロジェクトに従事し、一定の成果が得られた。固体中における水素とヘリウムの挙動に関する計算機シミュレーションについて、着実な成果が得られ、1本の原著論文が国際的学術誌に掲載された。トランスサイエンス問題とエネルギー環境教育については、1件の論文をエネルギー環境教育学会で発表した。また、琉大付属中理科の共同研究者として付属中教諭との共同研究に従事した。</p>		
社会 貢献	0.08	<p>○京都大学大学院 エネルギー科学研究科の博士後期課程の学生に対する研究指導を行う。</p> <p>○教員免許更新講習や物理学に関する講演・出前授業などを行う。</p>			0.04	<p>本大学院卒業生である京都大学大学院・博士課程所属の学生に対する研究指導を行い、一定の成果(学会発表1件)が得られた。また、科学作品展の審査委員に従事した。</p>		
管理 運営	0.08	<p>○理科教育専修4年次の指導教員および、入試委員としての業務を円滑に行う。</p>			0.06	<p>理科教育専修4年次の指導教員としての業務は円滑に行うことができた。入試委員としての業務も円滑に行った。</p>		
進路 指導	0.02	<p>○教育学部理科教育専修4年次の学生に対し、将来の進路に関する相談、助言などを行う。</p> <p>○教員採用試験に関する物理分野の受験指導を行う。</p>			0.01	<p>教育学部理科教育専修4年次の学生に対する進路指導を実施した。また、研究室に所属している3名の学部学生に対して、要望に応じた進路指導を行った。教員採用試験に関する物理分野の受験指導も行った。</p>		
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>			1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		濱田 栄作	所 属		教育学部 生涯教育課程 自然環境科学教育コース	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	担当科目について、学生の到達度を高める授業の工夫や教材の開発を実施する。また、年次指導教員として、学生生活および学習・進路等の相談および助言を実施する。			0.30	担当科目について、アクティブラーニングを意識した授業を展開した。また、附属中との共同研究として、確かな科学概念を身につけるための授業づくりに取り組んだ。		
研究	0.40	採択中の科学研究費補助金に関する研究を遂行するとともに、新しい研究課題を創出し、各種助成金の獲得を目指す。			0.40	採択中の科研費による研究を計画通りに進めるとともに、エネルギー教育に関する研究について、県内および海外の研究者との連携に着手した。		
社会貢献	0.10	教育実践総合センターのアドバイザースタッフ派遣事業や、地域の各種団体からの要望に応える。			0.15	地域学校における指導助言や、島尻教育研究所の指導講師を務めた。また、沖縄県児童・生徒科学賞展(物理分野)、および沖縄青少年科学作品展(アメリカンスクール)の審査委員を務めた。		
管理運営	0.10	教育委員として、大学教育の改善に取り組む。			0.15	学部教育委員および、全学学士教育プログラム委員として、大学教育の改善に取り組んだ。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		吉田 安規良		所 属		教育学部 学校教育教員養成課程 教育実践学専修		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.10	担当科目はほぼ全て「教員養成」と密接に関連しているため、教職志望の学生が、将来黑板を背にして教壇に立ったときに困らないような教育活動と学生教育支援(一教員として)を行う。				0.05	管理運営業務で多忙で、一教員としての仕事を満足してはできなかった。卒論指導の学生には迷惑をかけたと思う。				
研究	0.10	日本財団助成事業「海をいかした教育に関する実践的研究」の事務取扱として、最終年度の取りまとめ作業をするための必要な配慮をする。それ以外は、管理運営業務が膨大で時間的余裕がないのと科研費等の外部資金も獲得できなかったため、必要最低限の研究を継続するにとどめる。				0.10	日本財団助成事業については、事務職員の協力を得てどうにか進めることができた。研究については、時間的余裕がなく充実した形ではできなかった。				
社会貢献	0.15	教員免許状更新講習ならびに沖縄県教育委員会教育職員免許法認定講習の講師として、あるいは各種研修会・研究発表会に参加することを通して地域の現職教師教育に貢献する。				0.15	左記以外にも宮古島市立教育研究所の長期研修員の指導も行うなど左記目標は達成できた。ただし、それが終わりではなく継続していかなければならないが、雑用が多すぎて今以上は引き受けられない。				
管理運営	0.65	教育担当の学長補佐として、全学的見地から必要な業務を行う。				0.70	学長補佐として教育以外のことまで処理が回ってくる。後任人事の未補充の影響でアドミッション部門の責任者も併任する中で教職大学院の準備設計の世話人もしており、今年度は今まで以上に「管理運営しかしていない」感が強い。しかし実質的な昇給はなくモチベーションは下がる一方である。琉球大学は私に仕事をさせることで人件費を抑制することはできたと思う。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			